

# 令和3年度 第2回社会教育委員会議

日時 令和3年11月9日(火) 10:00~12:00

場所 北九州市立生涯学習総合センター3階 ホール

1 市民文化スポーツ局局长挨拶

2 委員紹介と北九州市事務局職員紹介

3 議題

(1) 議長・副議長の互選について [資料1]

(2) 北九州市生涯学習推進計画(令和2年度評価)について [資料2]

(3) 社会教育委員会議の協議テーマについて [資料3]

資料1

議長・副議長の互選について

## 北九州市社会教育委員会議関連法規

**社会教育法**

(審議会等への諮問)

第13条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和三十二年法律第二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。

(社会教育委員の構成)

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- (1) 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- (2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- (3) 前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(社会教育委員の委嘱の基準等)

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

**社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令**

(社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準)

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第18条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱することとする。

**北九州市社会教育委員条例（平成27年7月3日公布、8月29日施行）**

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条第1項の規定により、市に社会教育委員（以下「委員」という。）を置く。

第2条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから委嘱する。

第3条 委員の定数は、15人とする。

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 委員は、その事情により、任期中であっても解嘱することができる。

**北九州市社会教育委員会議規則**

第1条 社会教育委員の会議には、委員の互選により、議長および副議長2人をおく。

第2条 議長および副議長の任期は1年とする。ただし、再選されることができる。

第3条 議長は、社会教育委員の会議を主宰する。

第4条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるとき、または、議長が欠けたときは、その職務を行う。

第5条 委員の会議は、必要に応じて教育委員会がこれを招集する。

第6条 会議の招集は、開会の7日前までにこれを通知しなければならない。

第7条 教育委員会は、会議開催の日時、場所および会議に付議すべき事件をあらかじめ通知しなければならない。

第8条 この規則に定めるもののほか、社会教育委員の会議に関し必要な事項は、別に定める。

**資料2**

**北九州市生涯学習推進計画  
(令和2年度評価) について**

## 1 評価について

### (1) 基本的な考え方

平成28年3月に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びの環”推進プラン》（計画期間：平成28年度～令和2年度）（以下、計画という。）に掲載された施策及び事務事業を対象として、令和2年度の進捗状況を、指標等に基づいて、有効性などの視点から点検・評価し、施策及び事務事業の今後の推進に活用する。

### (2) 評価の方法

#### ① 評価の実施単位

計画の施策及び施策を構成する事務事業（施策評価・事務事業評価）

【施策】 「学習機運の醸成・情報提供と相談体制の整備」など5施策

【事務事業】 142事業 ※再掲事業を除く

#### ② 評価の指標

【施策】 計画策定時（一部、策定後）に設定した指標

【事務事業】 事業の実施状況、実績等を示す指標を設定

#### ③ 評価の視点

【施策】 施策の実績・成果（有効性）、構成事務事業の状況など

【事務事業】 事業の有効性、効率性、全体的な目標達成状況など

#### ④ 評価結果の表示

【施策】 施策単位でみた進捗の状況を、

A（大変順調）、B（順調）、C（やや遅れ）、D（遅れ）の4段階で評価

【事務事業】 事業の概要（目的）や実施状況を踏まえ、事業の目的達成状況を、

a（大変順調）、b（順調）、c（やや遅れ）、d（遅れ）の4段階で評価

#### ⑤ R2年度事業評価について、

本市の行政評価の事業評価基準を基に、新型コロナウイルス感染症の影響及びその他事業の実施状況、実績を踏まえ、評価した。

※参考：行政評価の評価基準

成果指標の達成率を基準に評価

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、

40%未満「遅れ」

## 施策1 学習機運の醸成・情報提供と相談体制の整備

関係課	市民文化スポーツ局 地域振興課、生涯学習課、生涯学習総合センター 保健福祉局 長寿社会対策課、同和対策課
-----	---

### 1. 全体評価

<b>C: やや遅れ</b>	評価理由	<p>施策の指標では、人材バンク登録者数、まなびネットひまわりへのアクセス数と生涯学習の認知度とともに目標値を下回った。</p> <p>個別事業では、</p> <p>(1)生涯学習事業実施機関のネットワーク形成において、「北九州”学びと活動の環”推進ネットワーク」を考える会は令和元年度で解散したが、考える会で立ち上げた「学びと活動の循環プロジェクト」、「家庭教育支援プロジェクト」は今後も継続的に実施する。</p> <p>(2)学習情報へのアクセスの利便性向上については、市民センターの館報の発行などを定期的に行い、地域住民へ情報発信に努めた。しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、貸館業務を中止したことから、市民センターの利用者数は半減した。</p> <p>以上から、「C.やや遅れ」と評価した。</p>
----------------	------	---

NO.	所管課	指標		現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	市民文化スポーツ局 生涯学習課	生涯学習の認知度に関して「言葉も意味も知っている」と回答した割合	目標値	—	76.0%	77.0%	78.0%	79.0%	80%以上
			実績	69.5%	73.3%	72.5%	58.2%	67.2%	64.4%
			達成率	—	96.4%	94.2%	74.6%	85.1%	80.5%
2	市民文化スポーツ局 生涯学習課	まなびネットひまわりへのアクセス数	目標値	—	30,000件	50,000件	70,000件	120,000件	180,000件
			実績	—	8,456件	5,849件	10,932件	15,878件	13,502件
			達成率	—	28.2%	11.7%	15.6%	13.2%	7.5%
3	市民文化スポーツ局 生涯学習課	人材バンク登録者数	目標値	—	240人	300人	360人	430人	500人
			実績	253人	224人	186人	187人	198人	223人
			達成率	—	93.3%	62.0%	51.9%	46.0%	44.6%

#### 【R2年度事業評価について】

本市の行政評価の事業評価基準を基に、新型コロナウイルス感染症の影響及びその他事業の実施状況、実績を踏まえ、評価した。

※参考：行政評価の評価基準

成果指標の達成率を基準に評価

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

# 施策1 学習機運の醸成・情報提供と相談体制の整備

		← 計画 / 実施 →				← 実 施 →					← 評価・方向性 (改善) →								
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	今後の方向性				
					予算額			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値				事業評価	評価理由		
					決算額	予算額						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値			
					(千円)	(千円)						達成率	達成率	達成率	達成率	達成率			
(1)生涯学習実施機関のネットワーク形成	1・重点	(仮称)「北九州学びの環パートナーシップ協議会」の形成	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 「北九州“学びと活動の環”推進ネットワーク」を考える会において立ち上げた2つのプロジェクトに取り組む。 <<実績>> 学びと活動の循環プロジェクト:学びから活動への仕組みづくりを実施 家庭教育支援プロジェクト:「キタキュー親力アップ漫画」作成	901の一部	617の一部	ネットワーク参加団体数	6団体	増加	増加	増加	増加	b:順調	「北九州“学びと活動の環”推進ネットワーク」を考える会は令和元年度で解散し、令和2年度は、考える会で立ち上げた学びと活動の循環プロジェクト・家庭教育支援プロジェクトに取り組んだ。	令和3年度から、学びと活動の循環プロジェクトの取り組みは、「地域課題解決の人材活用支援事業」で行い、家庭教育支援プロジェクトの取り組みは、「家庭・地域・学校パートナーシップ事業」において行う。				
				577の一部	6団体			6団体	6団体	9団体	解散								
					100.0%			横ばい	横ばい	150.0%	—								
(2)学習情報へのアクセスの利便性向上	2	市民センターだより(館報)の発行	市民文化スポーツ局 地域振興課 生涯学習課	<<目的>> 市民センターにおける生涯学習、コミュニティ活動などの情報提供や地域情報を発信する。 <<実績>> 令和2年度:3,167,037部	13,574の一部	13,574の一部	市民センター利用者数	5,300千人	5,300千人	5,300千人	5,300千人	5,300千人	d:遅れ	成果指標である市民センター利用者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、貸館業務を中止したことが大きく影響し、利用者数は半減した。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底すること等で利用者の増加を図る。				
				1,715	5,400千人			5,252千人	5,142千人	4,130千人	1,975千人	101.9%				99.1%	97.0%	77.9%	37.3%
	3・重点	「まなびネットひまわり」～北九州市生涯学習情報提供システム～の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> ホームページ「まなびネットひまわり」を活用して、市内の生涯学習に関する学習機会や講師の情報等、様々な情報を一元的に提供し、生涯学習活動の促進を図る。 <<実績>> 活動(ボランティア、NPO)の情報や市内の大学の情報とリンクさせるなど一元的な情報の提供など、ホームページのリニューアルに向けた取組みを行った。 令和2年度アクセス件数:13,502件	13,574の一部	13,574の一部	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%	70%以上	b:順調	成果指標である「過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)」の達成率は69.9%であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を考慮して「順調」と判断。	「まなびネットひまわり」をあらゆる機会を捉えて広報することで、様々な講座情報、講師情報に加え、活動情報など、幅広く多くの情報を掲載し、システムの充実化、また利用者及びアクセス件数の増加に努める。				
				530	66.4%			70.2%	63.8%	56.9%	48.9%	99.1%				103.2%	92.5%	81.3%	69.9%
4・重点	人材バンクの充実ホームページ掲載	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 生涯学習人材バンクとは、『教えてみたいー学びたい』という気持ちをつなぎ、自主的な学習活動を支援する。 <<実績>> 令和2年度新規人材バンク登録者数:12件 令和2年度人材バンク依頼件数:8件	530	13,574の一部	人材バンク依頼件数	20件	30件	50件	70件	100件	d:遅れ	成果指標である「人材バンク依頼件数」は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、達成率が8%という結果になったため「遅れ」と判断。	まなびネットひまわりをあらゆる機会を捉えて周知することで、多くの人に講師として登録してもらい、その講師を活用していただくことで、地域の生涯学習活動を推進する。					
			530	12件			8件	9件	24件	8件	60.0%				26.7%	18.0%	34.3%	8.0%	
5	生涯学習総合センターだより「まなび21」の発行	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	<<目的>> 生涯学習総合センター主催事業や生涯学習関連情報等を掲載した市民向けの情報紙を発行する。 <<実績>> 令和2年度発行部数:3,500部×4回	288	288	年間発行回数	4回	4回	4回	4回	4回	b:順調	成果指標の年間発行回数は予定通りの目標値を達成できた。 また、発行の度に企画会議及び編集会議を行い、内容の充実を図ることができたため、「順調」と判断した。	発行回数、発行部数とも、今後も、このペースで継続していく。					
			278	4回			4回	4回	4回	4回	100%				100%	100%	100%	100%	
6	生涯学習総合センター学習相談事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	<<目的>> 施設ボランティアの協力のもと、学習相談コーナーを定期的に開設し、生涯学習に関する様々な相談にきめ細かく対応する。 <<実績>> 令和2年度学習相談件数:12件	/		相談者の相談内容に対する問題解決率	100%	100%	100%	100%	100%	b:順調	近年のインターネット環境の発達などにより、来館による相談件数は減少傾向ではあるが、相談者の相談内容に対する問題解決は100%を維持できたため、「順調」と判断した。	施設ボランティアの積極的な協力により学習相談コーナーを定期的に開設し、適切に対応している。ただし、市民の学習情報の収集方法が多様化していること等により、来館での相談件数は減少傾向にある。今後も多様な情報提供(収集)に努めるとともに、きめ細やかな相談体制を継続していく。					
			100%				100%	100%	100%	100%									
			100%				100%	100%	100%	100%									

## 施策2 市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

関係課	危機管理室 危機管理課 企画調整局 企画課 総務局 女性活躍推進課、男女共同参画推進課 市民文化スポーツ局 生涯学習課、生涯学習総合センター、八幡西生涯学習総合センター、文化企画課、スポーツ振興課、安全・安心推進課 保健福祉局 総務課、認知症支援・介護予防センター、長寿社会対策課、地域福祉推進課、介護保険課、地域医療課、健康推進課、同和対策課 子ども家庭局 総務企画課、子育て支援課、青少年課 環境局 環境学習課、環境監視課、循環社会推進課 産業経済局 雇用政策課、産業イノベーション推進室 建設局 公園管理課 消防局 予防課、救急課 教育委員会 企画調整課、学校経営・教育指導課、生徒指導・教育相談課、子ども図書館
-----	---

### 1. 全体評価

C: やや遅れ	評価理由	施策の指標では、(仮称)「北九州学びの環パートナーシップ協議会」参加事業者による実施講座数(市主催分除く)が、民間事業者の撤退により、目標値を下回った。北九州市民カレッジ受講者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前期講座を全て中止、後期講座も一部中止したため、大幅に減少した。 個別事業では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの事業は中止・縮小したが、 (1) 生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実において、オンライン導入等の新たな方法で実施するなど、学習機会の提供を工夫した防災の分野等では、予定どおり、目標を達成した。 (2) ライフステージに応じた学習機会の提供、充実でも、事業の中止や縮小の中、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を図りながら、青少年～高齢者までの世代にわたって、学習機会を提供した。 (3) 地域課題解決に向けた地域における学習活動、交流活動の促進では、地域課題に対応するため、人権、子育て支援、安全・安心など様々な分野で取組みが進められた。 (4) 地域スポーツの振興では、「生涯スポーツ振興事業」「学校施設開放事業」は中止・縮小した。 (5) 地域文化の振興では、「伝統文化の発掘・継承」、「市民センタークラブ」などは適切に支援することができた。 以上から、「C. やや遅れ」と評価した。
---------	------	--

### 2. 施策の指標

NO.	所管課	指標	現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1	市民文化スポーツ局 生涯学習課	(仮称)「北九州学びの環パートナーシップ協議会」参加事業者による実施講座数(市主催分除く)	目標値	—	850講座	900講座	950講座	1,050講座	1,200講座
			実績	—	640講座	513講座	512講座	473講座	270講座
			達成率	—	75.3%	57.0%	53.9%	45.0%	22.5%
2	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	北九州市民カレッジ受講者数	目標値	—	1,380人	1,410人	1,440人	1,470人	1,500人
			実績	1,373人	1,435人	1,477人	1,682人	1,627人	529人
			達成率	—	104.0%	104.8%	116.8%	110.7%	35.3%

#### 【R2年度事業評価について】

本市の行政評価の事業評価基準を基に、新型コロナウイルス感染症の影響及びその他事業の実施状況、実績を踏まえ、評価した。

※参考：行政評価の評価基準

成果指標の達成率を基準に評価

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」



## 施策2 市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	計画 / 実施		実施					評価・方向性			
					R2年度 予算額 決算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	成果指標	H28年度 目標値 実績値 達成率	H29年度 目標値 実績値 達成率	H30年度 目標値 実績値 達成率	R1年度 (H31) 目標値 実績値 達成率	R2年度 目標値 実績値 達成率	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性
(1) 生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実	1 重点	「パッケージ型学習カリキュラム」提供事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的> 市民センターにおける市民講座等の企画に際し、市や県、企業、NPOなどの出前講座や、社会貢献活動をパッケージ型講座として情報提供し、市民センターの学習機能の充実を図る。 <<実績> 令和2年度:48講座	-	-	生涯学習市民講座参加者数	100,000人	100,000人	100,000人	110,000人	110,000人	c:やや遅れ	講座情報一覧の随時更新を行い、最新の情報を提供することができたが、成果指標である「生涯学習市民講座参加者数」は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により減少し、達成率が40.4%であったため、「やや遅れ」と判断した。	市や県、企業、NPOなどの出前講座や、社会貢献活動を収集し、市民センターへ周知する。 また、オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインを活用した講座を実施できるよう、市民センター館長・職員等の研修を充実させる。
								85,864人	84,426人	130,619人	124,765人	44,429人			
(2) ライフステージに応じた学習機会の提供、充実 ① 青少年への学習機会、体験活動の機会の充実	2	子ども文化ふれあいフェスタ	市民文化スポーツ局 文化企画課	<<目的> 日本舞踊やいけばななどの文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成するために、文化団体等が企画したワークショップ等を実施し、芸術文化に対する関心を高める。 <<実績> R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止	7,206の一部	6,757の一部	子ども文化ふれあいフェスタ参加者の満足度(%)	90%	90%	90%	90%	90%	-	R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず開催を中止した。	・例年参加者の満足度が非常に高く、本市の文化振興に寄与する事業であると考えている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちを対象とした多くの事業が開催できずにいる中、適切な感染防止対策を講じたが、子どもたちに文化・芸術に触れる機会を提供していきたい。
					0			98%	96%	-	94%	-			
	3	青少年体験活動等活性化事業	子ども家庭局 青少年課	<<目的> 青少年の「生きる力」や「豊かな心づくり」に欠かせない、自然体験や社会体験など様々な体験活動の情報を集約し発信するとともに、青少年リーダーの養成などを通じて、青少年の健全育成環境づくりをすすめる。 <<実績>6月、12月の年2回「キッズチャレンジ」の発行。青少年シニアリーダー会議「ぼんて」年9回開催。	3,020の一部	12,627の一部	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	前年度(5,415人)比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	b:順調	体験活動情報冊子「キッズチャレンジ」については、新型コロナウイルスの影響により、例年掲載の体験活動ではなく、「おうち遊び」を特集した特別号を作成。青少年シニアリーダー会議については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から会議開催数は減ったが、青少年の健全育成の環境づくりに向けた協議を進めることができた。	次代の担う青少年が社会との関わりを自覚しながら、自己を確立・向上していけるよう、青少年育成団体等と一層の連携を図り、青少年の体験活動の機会や場の創出に努める。
					901			5,734人	5,387人	7,116人	6,943人	2,329人			
	4	チャレンジ100キロ～歩け北九州っ子若武者の旅～	子ども家庭局 青少年課	<<目的> 心身ともにたくましい子どもたちの育成を目的として、子どもたちが、市内の青少年施設に連泊しながら、市内の山々など約100キロの行程を踏破する。 <<実績> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	3,020の一部	12,627の一部	参加者数	80人	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	H30年度比同水準	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止したため。	活動プログラムの充実と、実施体制のさらなる効率化を図る。
					0			80人	80人	80人	中止	中止			
	5	野外教育等推進事業	子ども家庭局 青少年課	<<目的> 夜宮青少年センターでのキャンプ、野外活動などを通して、「生きる力」を育むプログラムを実施する。また、同センターを拠点に、中高校生の居場所づくりや、ボランティアの養成などにも取り組む。 <<実績> 中高生クラブの参加者は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少したが、中高生の居場所としての機能を果たすことができた。	3,020の一部	12,627の一部	夜宮中高生クラブの参加者数	前年度(1,531人)比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者数が減少したため。	子どもたちの自然体験や生活体験の機会や場を増やしていく必要がある。
					275			1,250人	1,829人	1,790人	2,357人	1,404人			
② 子育て世代への学習機会の充実、家庭教育の充実	6	育児教室等の実施	子ども家庭局 子育て支援課	<<目的> 乳幼児の食事・睡眠等の基本的な生活習慣や、メディアとの付き合い方等子育てに関する知識の普及を図るため、赤ちゃんの育て方や子どもの心と身体の発達・しつけなど育児に必要な知識を中心とした講義や交流会を取り入れた教室を開催する。 <<実績> R2年度実施回数:135回	24,988の一部	22,867の一部	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童)	前年度(23.9%)比減少	前年度比減少	前年度比減少	25年度(44.7%)比減少	基準値(34.7%)比減少	b:順調	R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室を中止した時期があったため、回数は減少したが、育児学級の開催により、子育てに関する知識や情報を提供する機会を設けることができた。 そのため、「子育ての悩みや不安を感じる人の割合」は基準値である34.7%より増加しているが、「順調」と判断した。	・今後も感染対策を行いながら引き続き各区において、メディア視聴等健康課題に応じた教室を開催する。 ・様々な機会を通じ、育児に関する相談など専門的な支援や情報提供を行い、母子の健康づくりに寄与していく。 ・引き続き子育ての悩みや不安を軽減できるよう、相談の場や支援策のさらなる充実を図るとともに、その周知に取り組む。
					24,154			25.9%	34.8%	33.9%	35.5%	40.9%			
	7	家庭教育学級の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的> 家庭の教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。 <<実績> 令和2年度:2,674人	3,777	3,401	家庭教育学級参加者数	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	d:遅れ	活動指標とした「家庭教育学級の実施」は「全区で実施」の目標を達成できたが、成果指標の「家庭教育学級参加者数」については、コロナ禍での開催が難しく、目標を大きく下回ったため、「遅れ」と判断した。 しかしながら、いつでもどこでも見ることができ、家庭教育の大切さを考えるきっかけとなるウェブ漫画「キタキュー親力アップ」を作成し、情報発信を行った。	家庭教育学級の運営方法について、アンケートを実施するなど検証を行い、より良い運営方法を目指す。 また、コロナ禍においても家庭教育学級を実施できるようオンライン環境を整えていく。 ウェブ漫画「キタキュー親力アップ」についても、新たなテーマで作成し、家庭教育力の向上や子育て支援に関する情報発信を引き続き行う。
					2,401			19,445人	20,655人	19,165人	19,285人	2,674人			

施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	計画 / 実施		実施					評価・方向性					
					R2年度 予算額 決算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	成果指標	H28年度 目標値 実績値 達成率	H29年度 目標値 実績値 達成率	H30年度 目標値 実績値 達成率	R1年度 (H31) 目標値 実績値 達成率	R2年度 目標値 実績値 達成率	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性		
③ 成年世代への学習機会の充実	8	北九州市子どもを育てる10か条の普及促進	教育委員会 生徒指導・教育相談課	<<目的>> 子どもの「生きる力」をはぐむため、家庭や地域でできる子育て・親育ちのための10か条を平成15年度に制定しました。NPOによる出前講演や家庭教育学級など、様々な機会を通して市民への普及促進をさらに強化します。 <<実績>> 子どもを育てる10か条の配布	242	242	受講者に対して行ったアンケートの結果「非常に有意義であった」「有意義であった」と回答した割合	90%	90%	90%	90%	90%	—	R2年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため講演会を実施できなかった。	講演内容について広く市民に周知し、より多くの方に認知してもらえるよう啓発活動を行っていく。		
	9	【再掲】 生涯学習市民講座の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 市民の学習活動を支援し、一人一人が健康で心豊かな生活を送り、個人のいきがいくつりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題を解決するため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施する。 <<実績>> 令和2年度参加者数:44,429人	10,113	10,055	生涯学習市民講座参加者数	100,000人	100,000人	100,000人	110,000人	110,000人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、令和2年度当初より講座を中止せざるを得ず、活動指標(「生涯学習市民講座数」目標達成率68.6%)、成果指標ともに、目標値に達成しなかったため「やや遅れ」と判断した。 一方で、コロナ禍においても市民に学べる機会を提供できるよう、各区に必要な機材を設置するなど、オンライン環境の整備はあった。	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座などにおいて地域課題解決の講座、学んだ成果を活かす講座、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する講座等を充実させる。 また、更なるオンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやウェブ動画を活用した講座を実施できるよう、市民センター館長・職員等の研修を充実させる。		
	10	【再掲】 子育てネットワークの充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成する。 <<実績>> ○令和2年度 ・子育てサポーター:1,425人 ・子育てサポーターリーダー:196人 ・子育てサポーター養成講座受講者数:0人 (※新型コロナウイルス感染拡大防止により中止)	918	666	子育てサポーター登録者数	1,400人	1,450人	1,500人	1,550人	1,600人	b:順調	成果指標の「子育てサポーター登録者数」の達成率が89.1%、「子育てサポーターリーダー登録者数」の達成率が78.4%であるため「順調」と判断した。 子育てサポーターリーダー研修会は2年毎の実施に変更したため、令和2年度は実施していない。 (令和元年度から各区のリーダー研修とフォローアップ研修の実施を隔年ごとで実施することとした。)	子育てサポーターを養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局と協議する。 また、子育てサポーターリーダーの役割についても今後、市民センター館長と協議していきたい。		
	11	【再掲】 重点 北九州市民カレッジ事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	<<目的>> 市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。 <<実績>> 令和2年度受講者数:529人 (満足度99%) (※前期は全講座中止、後期は定員を減らす等感染防止対策を講じながら実施)	5,119 (八幡西 総合 含む)	4,710 (八幡西 総合 含む)	受講者数	1,380人	1,410人	1,440人	1,470人	1,500人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染拡大防止のため前期講座を全て中止した。また、後期においても一部中止の講座があったため受講者数は大幅に減少した。 しかし、後期受講者の満足度は、目標値を上回り高水準であったことから「やや遅れ」と判断した。	生涯学習社会を支える人材や地域活動をリードする人材の育成を目標としていることから、可能な限り対面での講座運営を目指していくが、オンライン活用など事業継続性の確保に向けた方策を検討していく。		
④ 高齢者への学習機会の充実	12	重点 高齢者いきがい活動支援事業	保健福祉局 長寿社会対策課	<<目的>> 高齢者の社会参加やいきがいづくりを促進するため、高齢者の参加しやすいボランティア・生涯学習情報等に関する情報の収集・提供等を行う。 <<実績>> 平成28年9月より小倉北区魚町へ移転した、いきがい活動ステーションにて実施 令和2年度利用者数:1,042人	8,834	8,834	利用者アンケート満足度	90%	92%	93%	95%	95%	—	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が大幅に減少した。また、ステーションにおいて講座・サロンを実施できず、参加者に対してアンケートができなかった。	引き続き利用の状況等を見ながら、リモートを活用するなどし、高齢者の社会貢献やいきがいづくりの推進を行う。		

		← 計 画 / 実 施 →				← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →								
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度				
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値	事業評価	評価理由	方向性
					決算額	決算額						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値			
					(千円)	(千円)						達成率	達成率	達成率	達成率	達成率			
	13	年長者研修大学校 (周望学舎・穴生学舎)	保健福祉局 長寿社会対策課	<<目的>> 高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。 <<実績>> 令和2年度受講者数:543人	187,408の一部	187,408の一部	総合的な満足度	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	b:順調	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受講者数が大幅に減少したが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断した。	事業を継続し、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを促進するとともに、高齢者の学習機会の提供の充実を図る。また、修了生の地域活動への参加促進を目指す。				
					183,151の一部			98.5%	97.0%	98.0%	96%	97%				109.4%	107.8%	108.9%	106.7%
	14	生涯学習市民講座の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 市民の学習活動を支援し、一人一人が健康で心豊かな生活を送り、個人のいきがいきや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題を解決するため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施する。 <<実績>> 令和2年度参加者数:44,429人	10,113	10,055	生涯学習市民講座参加者数	100,000人	100,000人	100,000人	110,000人	110,000人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、令和2年度当初より講座を中止せざるを得ず、活動指標(「生涯学習市民講座数」目標達成率68.6%)、成果指標ともに、目標値に達成しなかったため「やや遅れ」と判断した。 一方で、コロナ禍においても市民に学べる機会を提供できるよう、各区に必要な機材を設置するなど、オンライン環境の整備はあった。	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座などにおいて地域課題解決の講座、学んだ成果を活かす講座、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する講座等を充実させる。 また、更なるオンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやウェブ動画を活用した講座を実施できるよう、市民センター館長・職員等の研修を充実させる。				
					7,245			85,864人	84,426人	130,619人	124,765人	44,429人				85.9%	84.4%	130.6%	113.4%
(3)地域課題解決に向けた地域における学習活動、交流活動の促進	15	人権市民講座	教育委員会 企画調整課	<<目的>> 人権問題に関する市民の正しい理解と認識を深めるため、市民センターにおいて人権学習を推進する。 <<実績>> 各市民センター等で実施。	13,575の一部	12,693の一部	人権市民講座参加者数	13,000人以上	13,000人以上	13,000人以上	13,000人以上	13,000人以上	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公共施設の使用制限により、人権市民講座の開催回数・参加者数ともに目標値を下回っているため「やや遅れ」と判断した。	それぞれの地域の実情に応じた人権学習の機会の提供となるようテーマや実施方法を工夫するとともに、継続した講座実施に努め、市民の人権意識醸成につなげていく。				
					8,241の一部			14,849人	14,230人	15,312人	13,930人	6,413人				114.2%	109.5%	117.8%	107.2%
① 人権教育の推進	16	企業研修	教育委員会 企画調整課	<<目的>> 企業の事業主や研修担当者が、人権問題について正しい知識と理解を深めるために「人権を考える企業のつどい」や「公正採用選考人権啓発推進員研修」を開催し、企業内での人権学習の推進に取り組む。 <<実績>> 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「公正採用選考人権啓発推進員研修」と「人権を考える企業のつどい」を合同で動画配信を実施(例年は、「人権を考える企業のつどい」を1回、「公正採用選考人権啓発推進員研修」を2会場で開催)。	2,852	2,843	「人権を考える企業のつどい」での参加者アンケートの満足度	80%	80%	80%	80%	80%	b:順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集合型の研修は実施できなかったが、「人権を考える企業のつどい」「公正採用選考人権啓発推進員研修」を動画により合同で実施できた。「人権を考える企業のつどい」参加者アンケートによる満足度は目標を上回ることができ、その他の指標も概ね目標に達することができたことから「順調」と判断した。	企業担当者が人権に関する知識と理解を深める機会となるよう、公共職業安定所、労働基準監督署や民間団体等と協力しながら内容の充実を図るとともに、一部業務の委託など事業の効率化や開催方法の工夫を進め、今後も有効な研修となるようにすることが必要である。				
					2,118			850人以上	850人以上	850人以上	850人以上	850人以上				1,035人	1,043人	986人	1,024人
② 環境教育の推進	17	環境人財育成事業 (北九州市環境首都検定)	環境局 環境学習課	<<目的>> 楽しみながら環境学習ができる機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げるきっかけづくりを目的として「北九州市環境首都検定」を実施する。 <<実績>> 環境人財育成事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、小学校受検での受検者数は減少したが、中高生編の新設や一般編・上級編でのWeb受検の開始によって受検者数が増加し、過去最高の6,095人となった。	12,022	12,377	北九州市環境首都検定の満足度	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響があり会場受検者数の制限を設け開催。新たな試みのWeb検定を開催し、受検者数の目標値を達成した。 また、受検啓発については、会場等の閉館等あり未達成であったが、一定の効果は見られたため、「順調」と判断。	環境人財育成事業については、引き続き、環境首都検定の受検者増加に向けて、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に関心を持つきっかけとなることを目指す。				
					11,667			88%	78.7%	82.7%	78.4%	72.9%				97.8%	79.5%	91.9%	87.1%

施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	計画 / 実施		実施					評価・方向性			
					R2年度 予算額 決算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	成果指標	H28年度 目標値 実績値 達成率	H29年度 目標値 実績値 達成率	H30年度 目標値 実績値 達成率	R1年度 (H31) 目標値 実績値 達成率	R2年度 目標値 実績値 達成率	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性
③ 男女共同参画社会の形成の推進	18	地域における男女共同参画推進啓発事業	総務局 男女共同参画推進課	<<目的>> 地域における男女共同参画の推進を図るため、地域で活動している団体・グループ等と協働しながら、市民や若い世代が共感できる広報啓発活動に取り組む。 <<実績>> ・地域における男女共同参画に関する広報啓発事業:21回 783人 ・男女共同参画フォーラムin北九州:新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	3,648	3,470	男女共同参画という言葉の認知度	80%					-	「男女共同参画フォーラムin北九州」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止、「男女共同参画に関する広報啓発事業」は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会場閉鎖等の影響を受けたため、活動指標については、実施回数・参加者数ともに目標を下回った。 成果指標は5年毎の調査であり、令和2年度は行ってないため評価していない。	コロナ禍においてオンライン等の新たな実施手法を生かした講座を行う等により実施回数や参加者数を維持できるよう、地域で活動している団体・グループ等と協力して効果的な広報啓発活動に努める。
				745											
④ 子育て支援の推進	19	【再掲】 子育てネットワークの充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成する。 <<実績>> ○令和2年度 ・子育てサポーター:1,425人 ・子育てサポーターリーダー:196人 ・子育てサポーター養成講座受講者数:0人 (※新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止)	918	666	子育てサポーター登録者数	1,400人	1,450人	1,500人	1,550人	1,600人	b:順調	成果指標の「子育てサポーター登録者数」の達成率が89.1%、「子育てサポーターリーダー登録者数」の達成率が78.4%であるため「順調」と判断した。 子育てサポーターリーダー研修会は2年毎の実施に変更したため、令和2年度は実施していない。 (令和元年度から各区のリーダー研修とフォローアップ研修の実施を隔年ごとで実施することとした。)	子育てサポーターを養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局と協議する。 また、子育てサポーターリーダーの役割についても今後、市民センター館長と協議していきたい。
				495	1,436人			1,453人	1,551人	1,561人	1,425人				
					102.6%			100.2%	103.4%	100.7%	89.1%				
					170人			190人	210人	230人	250人				
⑤ 高齢社会対策の推進	20	【再掲】 年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)	保健福祉局 長寿社会対策課	<<目的>> 高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図ります。修了生の組織でボランティア活動を実施する。 <<実績>> 令和2年度受講者数:543人	187,408の一部	187,408の一部	総合的な満足度	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	b:順調	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受講者数が大幅に減少したが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断した。	事業を継続し、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを促進するとともに、高齢者の学習機会の提供の充実を図る。また、修了生の地域活動への参加促進を目指す。
				183,151の一部	98.5%			97.0%	98.0%	96%	97%				
					109.4%			107.8%	108.9%	106.7%	107.8%				
⑥ 団塊の世代の社会貢献への参画	22	【再掲】 生涯現役夢追塾	保健福祉局 長寿社会対策課	<<目的>> 団塊の世代を中心に、退職後もその技術や経験等を生かし、地域での産業活動や社会貢献活動などの担い手として活躍していく人材の発掘と育成を行う。 <<実績>> 令和2年度生涯現役夢追塾の延べ入塾者数 517人	6,760	11,130の一部	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	H29年度までに7万人	70000人	H32年度(令和2年度)までに10万人	令和2年度までに10万人	令和2年度までに10万人	b:順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止による講座数減少のためR2年度目標には満たなかったものの、受講者数の伸びを維持できており、認知症の人やその家族を見守り支えるという役割を果たしていると考えられるため。	自治会等に加え、民間企業や子ども・学生など幅広く、認知症サポーター養成講座の普及啓発に努め、より多様な認知症サポーターの養成に取り組む。
				5,474	73,201人			80,581人	87,196人	94,100人	95,423人				
					-			115.1%	-	-	95.4%				
		90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	b:順調	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、入塾者数が大幅に減少したが、アンケートの満足度が高かったため、「順調」と判断した。	これまでの実施事業の内容や成果についての検証を行いながら、社会貢献活動や産業経済活動などの担い手として活躍していく人材の発掘と育成を図る。						
18,232	81%	88%	79%	62%	100%										
18,231	90.0%	97.8%	87.8%	68.9%	111.1%										

施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	計画 / 実施		実施					評価・方向性			
					R2年度 予算額 決算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (H31)	R2年度	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性
					目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率		目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率					
⑦ 安全・安心対策の推進	23	【再掲】 スクールヘルパーの配置	教育委員会 学校経営・教育指導課	《目的》 地域の人材や教育機能を学校教育に生かし、地域と学校が連携して子どもたちの「生きる力」を大きくむこと。 《実績》 令和2年度延べ活動人数: 27,619人	52,325	51,575	スクールヘルパー延べ活動人数	120,000人 116,813人 97.3%	120,000人 110,358人 92.0%	120,000人 100,074人 83.4%	R1年度 (H31) 前年度の水準を維持 84,732人 84.7%	R2年度 前年度の水準を維持 27,619人 32.6%	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域学校協働活動推進員やスクールヘルパーを中心に行う地域学校協働活動を11月まで中止していた。このため、スクールヘルパーの延べ活動人数は目標人数を大きく下回ったことから「やや遅れ」と判断した。	より学校のニーズに合ったスクールヘルパーを多く配置できるようにする必要がある。
	24 重点	【再掲】 市民カレッジ受講生によるグループ	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	《目的》 市民カレッジの受講生で組織するグループが、地域課題等に関する自主的な活動を継続し、学びの成果を地域へ還元していく。 《実績》 令和2年度新規結成数: 1団体(累計21団体)	-	-	生涯学習グループの増加(新規結成)数	1団体 1団体 100.0%	1団体 1団体 100.0%	1団体 1団体 100.0%	1団体 1団体 100.0%	1団体 1団体 100.0%	b:順調	目標どおり1団体新規に結成し、活動グループが計21団体となったため、「順調」と判断した。	各グループにおいて自主的な活動が継続され、グループ相互のネットワークも作られているなど、概ね順調に成果をあげている。今後も、講座の受講生による活動グループの結成を目指すとともに、自主活動を促進させていく。
	25 重点	みんな de Bousai まちづくり人材育成事業	危機管理室 危機管理課	《目的》 大学と協働し、防災科目を新設するなど、市内の大学生を対象に、防災教育を実施し、学生自身が災害時に主体的に判断し行動できる知識を身につけ、地域コミュニティにおいて新たな地域防災の担い手として活動できる人材を育成する。 《実績》 令和2年度の、北九州市立大学の防災科目履修者は75名。東京大学特任教授である片田敏孝氏を講師とした公開講座については中止(令和3年度は実施済み)。	2,395	1,109	地域防災の新たな担い手を育成した人数	60人 81人 135.0%	60人 77人 128.3%	60人 119人 198.3%	60人 100人 166.7%	60人 75人 125.0%	a:大変順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から授業の実施自体が危ぶまれたが、大学の方針により従来とは異なるリモート式授業又は市から提供した資料を基にした自主研究によって人材の育成を行えた。防災科目履修生についても75名と目標値である60名を超え達成したため。	今後も地域防災を担う新たな人材を育成するため、大学と協働し事業を継続していく。
	26 重点	子どもと女性の「防犯力アップ」事業	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	《目的》 子ども達が実際に地域を歩いて、どういった場所が危ないかを確認し、地図にまとめる「地域安全マップづくり」に加え、子どもや女性を対象とした「安全セミナー」や子どもを見守る保護者や教員等を対象とした「見守りセミナー」を開催することで、防犯意識や危険回避能力の向上を図る。 《実績》 ・各種セミナー等の開催 15回	3,087	3,087	「安全セミナー」「犯罪から身を守るセミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施回数	20回 34回 170.0%	50回 67回 134.0%	80回 99回 123.8%	110回 122回 110.9%	140回 133回 95.0%	b:順調	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各種セミナーの実施回数は落ち込んだものの、各種取組により刑法犯や性犯罪の認知件数は減少したため「順調」と判断。	コロナ禍でも事業の実施を可能な、新しい生活様式を踏まえた既存事業の見直しや新規事業の取組を検討し、引き続き刑法犯や性犯罪の認知件数減少を目指す。
(4) 地域スポーツの振興	27	生涯スポーツ振興事業(旧地域スポーツ振興事業)	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	《目的》 各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。 《実績》 令和2年度参加人数: 428人	18,066	16,602	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,600人 17,280人 137.1%	12,600人 18,127人 143.9%	12,600人 18,163人 144.2%	12,600人 14,931人 118.5%	12,600人 428人 3.4%	d:遅れ	新型コロナウイルスの影響でイベント中止が相次ぎ、目標を達成できなかったため「遅れ」と判断。	「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するために、生涯スポーツの普及・振興など、幅広く展開していく。地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創出するよう様々な団体と連携して生涯スポーツの普及・振興に努める。
	28	北九州マラソン開催事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	《目的》 生涯スポーツの振興を図るため、1万人規模のマラソンを開催します。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力PRし、シビックプライドの醸成を図る。 《実績》 新型コロナウイルスの感染拡大のため、北九州マラソン2021は中止とした。	82,543	88,543	インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング(参加者7,000人以上の大会を対象)	1位 9位 -	1位 7位 -	1位 9位 -	1位 2位 -	1位 -	-	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため大会は中止とした。一方、代替の取組として、市民に呼びかけ、それぞれがリモート参加でランニングやウォーキングを行う「オクトーバー・ラン&ウォーク2020」(主催:(一財)アールビーズスポーツ財団)に北九州市として参加した。	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底し、安心・安全な実施を目指すとともに、大会の開催により、市民のスポーツ・健康に対する意識のさらなる向上を図り、本市の魅力を全国へ発信する。

		← 計 画 / 実 施 →					← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →			
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値			
					決算額	決算額	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値			
					(千円)	(千円)	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率			
	29	学校施設開放事業	教育委員会 生徒指導・教育相談課	<<目的>> 学校施設も地域の身近な公共施設であることから、地域スポーツの普及及び児童の安全な遊び場を確保するため、学校教育に支障のない範囲で小・中学校の施設を市民に開放します。さらに課題を解決しながら、より一層の開放、活用について検討する。 <<実績>> スポーツ・遊び場開放あわせて、39万人程度が利用。	45,160	40,867	遊び場開放利用者数	-	-	-	-	-	b:順調	R1・R2年度は新型コロナウイルス感染予防のため事業を中止した時期があり、使用人数が減少したが、中止時期以外は概ね同程度の利用者がいることから「順調」とした。	地域住民への騒音問題や利用団体の公正な利用に配慮しながら、学校教育活動に支障のない範囲で、小中学校の運動場・体育館・武道場を市民に開放していく。
					12,909		スポーツ開放利用者数	469,840人	455,410人	437,570人	387,590人	246,319人			
								-	-	-	-	-			
								316,797人	308,327人	298,953人	254,229人	141,089人			
								-	-	-	-	-			
(5)地域文化の振興	30	伝統文化の発掘・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	<<目的>> 指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。 <<実績>> 指定無形民俗文化財保存団体(13団体)に対して補助金を交付した。	1,127 の一部	1,127 の一部	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16団体	16団体	16団体	16団体	16団体	b:順調	保存団体への周知と適切な協議を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で行事を開催できず、当初計画どおりに事業を実施できない等で、申請金額を返還した団体もあったが、各団体とも次年度での実施の意欲は高く、文化財の保存伝承の成果はあったと考えられるため「順調」と判断。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き文化財保護団体の活動の強化を資する補助制度を継続していく。
					838 の一部			16団体	16団体	16団体	16団体	13団体			
								100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	81.3%			
	31	文化財の保存・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	<<目的>> 文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。 <<実績>> 文化財保護審議会の開催、指定文化財の保存修理事業への補助金の交付を実施。補助金の活用により、黒崎祇園行事用具修理や、永照寺輪蔵及び経蔵保存修理等を行った。	4,700	4,438	文化財保護審議会の開催	1回	2回	1回	1回	1回	b:順調	国・県と連携して適切に活動した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で事業が実施できない団体があったが、次年度で実施できる見込みであることから、「順調」と判断。	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を実施し、市内の文化財を保護・活用していく。
					382			1回	0回	2回	0回	0回			
								100.0%	0.0%	200.0%	0.0%	0.0%			
	32	文化祭の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 日常の学習活動の成果を発表し、学習意欲を高め、地域の連帯感を醸成するために市民センター等で開催する。 <<実績>> 令和2年度:37,430人	13,574 の一部	13,574 の一部	成果発表の実施	実施	実施	実施	実施	実施	c:やや遅れ	コロナ禍のため文化祭の実施は60館となり半数以下となった。クラブの活動の様子や作品等の展示についても同様のため、「やや遅れ」と判断した。	学習活動の成果の場としてだけでなく、地域の連帯感を醸成するための工夫をして開催する必要がある。また、コロナ禍においても文化祭を開催できるようにオンライン環境を整えていく。
					397			実施	実施	実施	実施	実施			
								-	-	-	-	-			

## 施策3 地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

<b>関係課</b>	危機管理室 危機管理課 市民文化スポーツ局 地域振興課、市民活動推進課、生涯学習課、生涯学習総合センター、八幡西生涯学習総合センター、文化企画課、スポーツ振興課、安全・安心推進課、消費生活センター、美術館、自然史・歴史博物館 保健福祉局 認知症支援・介護予防センター、長寿社会対策課、地域福祉推進課、健康推進課、人権文化推進課 子ども家庭局 子育て支援課、青少年課 環境局環境学習課 環境監視課、循環社会推進課 消防局 消防団・市民防災課 教育委員会 企画調整課、学校経営・教育指導課、生徒指導・教育相談課、子ども図書館
------------	--

### 1. 全体評価

<b>C: やや遅れ</b>	<b>評価理由</b>	施策の指標では、「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合といきがい活動ステーションの利用者数及びホームページ閲覧件数においては、目標値に届かなかったものの、子育てサポーターリーダー数は概ね目標値を達成した。 個別事業では、 (1)地域リーダーに対する学習機会の充実では、地域防災や子育て支援、生涯学習など様々な分野において、学習機会の提供に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止・縮小した事業があった。 (2)地域課題に対する地域独自の取組みの収集と情報共有化では、「生涯学習推進コーディネーターの配置」に取り組んだが、目標には届かなかった。 (3)ボランティア活動の促進では、市民センターや青少年ボランティアステーションなど拠点施設から情報を発信、共有化し活動促進された。 (4)学習成果が活かされる環境づくり (5)市民の自発的な活動の支援では、子育てサポーターや、市民活動サポートセンターが開催するNPO、市民活動に関する相談・助言等の取組が着実に進められているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業が多かった。 以上から、「C. やや遅れ」と評価した。
----------------	-------------	---

### 2. 施策の指標

NO.	所管課	指標	現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合	目標値	—	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60%以上
			実績	44.1%	(未調査)	30.6%	32.1%	37.5%	37.5%
			達成率	—	—	56.7%	57.3%	64.7%	62.5%
2	市民文化スポーツ局 生涯学習課	子育てサポーターリーダー数	目標値	—	170人	190人	210人	230人	250人
			実績	153人	157人	164人	182人	196人	196人
			達成率	—	92.4%	86.3%	86.7%	85.2%	78.4%
3	保健福祉局 長寿社会対策課	いきがい活動ステーションの利用者数及びホームページ閲覧件数	目標値	—	15,200件	26,000件	52,000件	52,000件	52,000件
			実績	19,803件	35,397件	44,179件	33,568件	23,353件	8,922件
			達成率	—	232.9%	169.9%	64.6%	44.9%	17.2%

#### 【R2年度事業評価について】

本市の行政評価の事業評価基準を基に、新型コロナウイルス感染症の影響及びその他事業の実施状況、実績を踏まえ、評価した。

※参考：行政評価の評価基準

成果指標の達成率を基準に評価

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

施策3 地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

		← 計画 / 実施 →				← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →					
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	今後の方向性	
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値
					決算額	(千円)						達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
(1)地域リーダーに対する学習機会の充実	1	生涯現役夢追塾	保健福祉局 長寿社会対策課	≪目的≫ 団塊の世代を中心に、退職後もその技術や経験等を生かし、地域での産業活動や社会貢献活動などの担い手として活躍していく人材の発掘と育成を行う。 ≪実績≫ 令和2年度生涯現役夢追塾の延べ入塾者数517人	18,232	18,232	受講者アンケートの満足度	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	b:順調	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、入塾者数が大幅に減少したが、アンケートの満足度が高かったため、「順調」と判断した。	これまでの実施事業の内容や成果についての検証を行いながら、社会貢献活動や産業経済活動などの担い手として活躍していく人材の発掘と養成を図る。	
	2	認知症サポーターキャラバン事業	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	≪目的≫ 認知症の方やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりをめざし、認知症を理解して、認知症の人やその家族を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組む。 ≪実績≫ 令和2年度 認知症サポーター数(累積):95,423名	6,760	11,130の一部	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	H29年度までに7万人	70,000人	H32年度(令和2年度)までに10万人	令和2年度までに10万人	令和2年度までに10万人	b:順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止による講座数減少のためR2年度目標には満たなかったものの、受講者数の伸びを維持できており、認知症の人やその家族を見守り支えるという役割を果たしていると考えられるため。	自治会等に加え、民間企業や子ども・学生など幅広く、認知症サポーター養成講座の普及啓発に努め、より多様な認知症サポーターの養成に取り組む。	
	3	子育てネットワークの充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	≪目的≫ 子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成する。 ≪実績≫ ○令和2年度 ・子育てサポーター:1,425人 ・子育てサポーターリーダー:196人 ・子育てサポーター養成講座受講者数:0人 (※新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止)	918	666	子育てサポーター登録者数	1,400人	1,450人	1,500人	1,550人	1,600人	b:順調	成果指標の「子育てサポーター登録者数」の達成率が89.1%、「子育てサポーターリーダー登録者数」の達成率が78.4%であるため「順調」と判断した。 子育てサポーターリーダー研修会は2年毎の実施に変更したため、令和2年度は実施していない。 (令和元年度から各区のリーダー研修とフォローアップ研修の実施を隔年ごとで実施することとした。)	子育てサポーターを養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局と協議する。 また、子育てサポーターリーダーの役割についても今後、市民センター館長と協議していきたい。	
	4	生涯学習指導者育成セミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習課	≪目的≫ 地域課題に対する地域福祉活動、まちづくり推進活動、子育て活動などに総合的に取り組める、生涯学習を推進するための人材育成を目指す。 ≪実績≫ 令和2年度受講生:0人 (※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)	750	750	生涯学習指導者育成セミナー修了率	100%	100%	100%	100%	100%	—	令和2年度については、新型コロナウイルス感染症防止のため、セミナーを中止した。	令和3年度は対面とオンラインでセミナーを実施している。今後も対面に加え、オンラインを活用するなど、状況に応じてセミナーを実施していく。	
	5 重点	北九州市民カレッジ事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	≪目的≫ 市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。 ≪実績≫ 令和2年度受講者数:529人 (満足度99%) (※前期は全講座中止、後期は定員を減らす等感染防止対策を講じながら実施)	5,119 (八幡西 総合含む)	4,710 (八幡西 総合含む)	受講者数	1,380人	1,410人	1,440人	1,470人	1,500人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため前期講座を全て中止した。また、後期においても一部中止の講座があったため受講者数は大幅に減少した。 しかし、後期受講者の満足度は、目標値を上回り高水準であったことから「やや遅れ」と判断した。	生涯学習社会を支える人材や地域活動をリードする人材の育成を目標としていることから、可能な限り対面での講座運営を目指していくが、オンライン活用など事業継続性の確保に向けた方策を検討していく。	
					3,338		受講者の満足度	104.0%	95.5%	116.8%	110.7%	35.3%				
								95%	95%	95%	95%	95%				
								96%	98%	99%	98%	99%				
								101.1%	103.2%	104.2%	103.2%	104.2%				



		← 計 画 / 実 施 →					← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →				
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	今後の方向性	
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値
					決算額	予算額						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
					(千円)	(千円)						達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
	6	女性リーダー国内研修	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	<<目的>> 市内で活動している女性や学習グループのリーダー、今後リーダーとして活動しようとする意欲のある人を先進他都市等に派遣し、生涯学習活動に必要な専門的知識や技術についての学習を深め、地域活動の中心となる人材の育成及びスキルアップを図る。 <<実績>> 令和2年度研修生:0人 (※新型コロナウイルス感染拡大防止により中止)	639	636	研修参加者の満足度	80%	80%	80%	80%	80%	—	新型コロナウイルス感染拡大防止により事業自体を中止とした。	地域で活躍する多様な人材の育成を図るため、平成29年度から、応募資格を「生涯学習指導者育成セミナー」の受講経験がある方に、平成30年度からは北九州市民カレッジ「社会教育・生涯学習基礎講座」にも拡大した。今後は、研修先の変更やリモート講義の実施など、より参加しやすい研修内容を検討しながら、幅広く地域活動等のリーダーとして活躍する女性の人材育成を目指す。	
					0			86%	100%	100%	100%	—				
					0			107.5%	125.0%	125.0%	125.0%	—				
	7 重点	読み聞かせボランティア養成	教育委員会 子ども図書館	<<目的>> 読書を通して、子どもの豊かな感性を育むため、読み聞かせなどが行えるボランティアの育成を図る。 <<実績>> 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により講座を中止。	441	331	読み聞かせボランティア養成講座の受講者数	130人	125人	125人	125人	125人	—	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため講座を中止したことにより、評価が難しいとした。	読書をする子どもを増やすには、大人の協力は欠かせない。子どもが読書活動に親しみ、読書の大切さを知ることができるよう、力強く支える大人を増やし、市立図書館や学校など市内で活動している読み聞かせボランティアなど読書に係るボランティアの育成、連携支援に取り組む。	
					0			128人	123人	112人	105人	0人				
					0			98.5%	98.4%	89.6%	84.0%	—				
(2) 地域課題に対する地域独自の取組みの収集と情報共有化	8	生涯学習推進コーディネーター研修会	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 全市の生涯学習推進コーディネーターが一堂に会し、意見交換や情報交換を行い、交流を深めることで、より地域の学びと活動を活性化する専門人材となるよう研修会を実施する。 <<実績>> 令和2年度:51人	7,316	6,969	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	65%	70%	75%	80%	85%	c:やや遅れ	生涯学習推進コーディネーター研修会は目標を上回って実施したが、成果指標の配置割合が46.1%であるため「やや遅れ」と判断した。一方、新規の生涯学習推進コーディネーター研修会を開催して能力向上を図ったほか、社会教育主事・主事補を通じて館長に配置を依頼するなど、生涯学習推進コーディネーター配置推進を行った。	生涯学習推進コーディネーターの配置については、館長研修や区の社会教育主事・主事補を通じて、配置の意義・効果に加え人材の見つけ方などを周知し、全館配置に向け取り組む。	
					78			51%	56%	51.5%	45.4%	46.1%				
					78			78.5%	80.0%	68.7%	56.8%	54.2%				
(3) ボランティア活動の促進	9	NPO・市民活動促進事業	市民文化スポーツ局 市民活動推進課	<<目的>> 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動サポートセンターを拠点として、NPO・市民活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、講座の開催、NPO法人設立・運営支援などを行う。 <<実績>> 新規設立NPO法人数(累計):128法人 サポートセンター利用者数:11,572人 講座実施数:13講座 広報誌などの発行:12回	20,176	17,709	新規設立NPO法人数(累計)	75法人	90法人	105法人	120法人	135法人	b:順調	新規設立NPO法人数は目標を概ね達成している一方、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等によりサポートセンター利用者数が大きく減少しているが、事業自体は概ね順調に遂行されており「順調」と判断。	今後も市民活動の裾野を広げるため、市民に対し活動のきっかけづくりとなるセミナーや講演会等の充実を図っていく。	
					73法人			88法人	99法人	116法人	128法人					
					97.3%			97.8%	94.3%	96.7%	94.8%					
	10	青少年ボランティアステーション推進事業	子ども家庭局 青少年課	<<目的>> 青少年の成長に欠かすことのできない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年の体験活動を支援、促進する。 <<実績>> ボランティア体験活動者数 2,329人	1,533	1,533	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	前年度(5,415人)比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	d:遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティアを必要とするイベント等が相次いで中止となし、体験活動者が減少したため。	次代を担う青少年が社会との関わりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、引き続き、ボランティア活動を通じた豊富な体験活動プログラムの提供と活動支援を進める。	
					786			5,734人	5,387人	7,116人	6,943人	2,329人				
					786			105.8%	93.9%	132.0%	97.5%	33.5%				
(4) 学習成果が活かされる環境づくり	11 重点	市民センタークラブ	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 生涯学習市民講座終了後、さらに継続的な学習を希望する人々で作られたクラブや自主的なサークル活動からスタートしたクラブ活動を支援、促進する。 <<実績>> クラブ数(R3.4.1時点):4,391	—	—	地域社会の発展に向けた貢献	実施	実施	実施	実施	実施	b:順調	活動指標である「市民センタークラブの全館実施」及び成果指標が、概ね目標値に達したため、「順調」と評価した。	市民センタークラブと市民センターが協力関係を築き、引き続き自主的な学習活動を継続し、学習成果を地域活動などに活かしていけるような機会の充実を図る。	
					—			実施	実施	実施	実施	実施				
					—			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				

← 計 画 / 実 施 →		← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →									
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	今後の方向性	
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値
					決算額	予算額						達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
	12・重点	北九州エンジョイント事業(旧北九州市民アカデミー事業)	市民文化スポーツ局生涯学習総合センター	<<目的>> 市民自らが市民の学習ニーズを取り入れながら講座の企画・運営を行う仕組みづくりを行い、学習機会の拡充を図ることを目的として、区ごとに運営組織を設立し、自主講座を実施する。 <<実績>> 令和2年度講座実施回数：24回、参加人数：866人(※新型コロナウイルス感染拡大により実施減少)	310	210	北九州エンジョイント事業参加人数	2,200人	2,200人	2,200人	2,200人	2,200人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、講座実施回数や参加人数は大幅に減少したため、「やや遅れ」と判断した。	平成30年度より、旧事業を見直して「北九州エンジョイント事業」として新たに全区でスタートした。今年度は、地域の誇りや愛着の高揚が図れると同時に、人材発掘や学びの意欲向上についても期待できるような企画事業を実施する区もでてきており、今後このような事業を市内全域へ広めることで参加者が地域づくりや人材育成に関心を持ち、さらに地域へ関わってもらえるよう事業展開していく。	
				245	2,208人			2,135人	2,306人	2,277人	866人	100.4%				97.0%
	13・重点	市民カレッジ受講生によるグループ	市民文化スポーツ局生涯学習総合センター	<<目的>> 市民カレッジの受講生で組織するグループが、地域課題等に関する自主的な活動を継続し、学びの成果を地域へ還元していく。 <<実績>> 令和2年度新規結成数：1団体(累計21団体)	-	-	生涯学習グループの増加(新規結成)数	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	b:順調	目標どおり1団体新規に結成し、活動グループが計21団体となったため、「順調」と判断した。	各グループにおいて自主的な活動が継続され、グループ相互のネットワークも作られているなど、概ね順調に成果をあげている。今後も、講座の受講生による活動グループの結成を目指すとともに、自主活動を促進させていく。	
				-	100.0%			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
(5)市民の自発的な活動の支援	14	【再掲】 NPO・市民活動促進事業	市民文化スポーツ局市民活動推進課	<<目的>> 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動サポートセンターを拠点として、NPO・市民活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、講座の開催、NPO法人設立・運営支援などを行う。 <<実績>> 新規設立NPO法人数(累計)：128法人 サポートセンター利用者数：11,572人 講座実施数：13講座 広報誌などの発行：12回	20,176	17,709	新規設立NPO法人数(累計)	75法人	90法人	105法人	120法人	135法人	b:順調	新規設立NPO法人数は目標を概ね達成している一方、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等によりサポートセンター利用者数が大きく減少しているが、事業自体は概ね順調に遂行されており「順調」と判断。	今後も市民活動の裾野を広げるため、市民に対し活動のきっかけづくりとなるセミナーや講演会等の充実を図っていく。	
				19,803	73法人			88法人	99法人	116法人	128法人	97.3%				97.8%
	15・重点	【再掲】 北九州エンジョイント事業(旧北九州市民アカデミー事業)	市民文化スポーツ局生涯学習総合センター	<<目的>> 市民自らが市民の学習ニーズを取り入れながら講座の企画・運営を行う仕組みづくりを行い、学習機会の拡充を図ることを目的として、区ごとに運営組織を設立し、自主講座を実施する。 <<実績>> 令和2年度講座実施回数：24回、参加人数：866人(※新型コロナウイルス感染拡大により実施減少)	310	210	北九州エンジョイント事業参加人数	2,200人	2,200人	2,200人	2,200人	2,200人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、講座実施回数や参加人数は大幅に減少したため、「やや遅れ」と判断した。	平成30年度より、旧事業を見直して「北九州エンジョイント事業」として新たに全区でスタートした。今年度は、地域の誇りや愛着の高揚が図れると同時に、人材発掘や学びの意欲向上についても期待できるような企画事業を実施する区もでてきており、今後このような事業を市内全域へ広めることで参加者が地域づくりや人材育成に関心を持ち、さらに地域へ関わってもらえるよう事業展開していく。	
				245	2,208人			2,135人	2,306人	2,277人	866人	100.4%				97.0%

## 施策4 学習を支える体制づくりと環境整備

関係課	市民文化スポーツ局 地域振興課、生涯学習課、生涯学習総合センター、八幡西生涯学習総合センター、長崎街道木屋瀬宿記念館、美術館、自然史・歴史博物館、松本清張記念館、文学館 子ども家庭局 青少年課 教育委員会 企画調整課、中央図書館庶務課・奉仕課・子ども図書館
-----	--

### 1. 全体評価

<b>D:遅れ</b>	評価理由	<p>施策の指標では、「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」に肯定的な回答をした割合が高かったものの、生涯学習関連施設の利用者数合計、市立図書館(ひまわり文庫を除く)における市民一人当たりの貸出冊数は、目標値を下回った。</p> <p>個別事業では、</p> <p>(1)市民の学びを支える体制づくりでは、市民センター館長、職員の研修や地域人材である、生涯学習推進コーディネーターや子育てサポーターの研修など、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部中止した。</p> <p>(2)生涯学習関連施設の充実と連携においては、各施設の整備を予定どおり進めていったが、新型コロナウイルス感染症の影響等により施設利用者数は大幅に減少した。</p> <p>以上から、「D.遅れ」と評価した。</p>
-------------	------	--

### 2. 施策の指標

NO.	所管課	指標	現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1	市民文化スポーツ局 生涯学習課	「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」に肯定的な回答をした割合	目標値	—	66.0%	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%
			実績	64.4%	(未調査)	54.2%	19.4%	63.3%	63.3%
			達成率	—	—	80.9%	28.5%	91.7%	90.9%
2	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	生涯学習関連施設の利用者数合計	目標値	—	2,708千人	2,708千人	2,708千人	2,708千人	上昇 (2,708千人以上)
			実績	2,708千人	2,421千人	2,410千人	2,357千人	2,045千人	1,062千人
			達成率	—	89.4%	89.0%	87.0%	75.5%	39.2%
3	教育委員会 中央図書館 庶務課・奉仕課・ 子ども図書館	市立図書館(ひまわり文庫を除く)における市民一人当たりの貸出冊数	目標値	—	4.01冊	4.01冊以上	4.01冊以上	4.01冊以上	上昇 (4.01冊以上)
			実績	4.01冊	3.92冊	3.72冊	4.11冊	3.61冊	2.54冊
			達成率	—	97.8%	92.8%	102.5%	90.0%	63.4%

#### 【R2年度事業評価について】

本市の行政評価の事業評価基準を基に、新型コロナウイルス感染症の影響及びその他事業の実施状況、実績を踏まえ、評価した。

※参考：行政評価の評価基準

成果指標の達成率を基準に評価

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

## 施策4 学習を支える体制づくりと環境整備

施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	計画 / 実施		成果指標	実施					評価・方向性		
					R2年度 予算額 決算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)		H28年度 目標値 実績値 達成率	H29年度 目標値 実績値 達成率	H30年度 目標値 実績値 達成率	R1年度 (H31) 目標値 実績値 達成率	R2年度 目標値 実績値 達成率	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性
(1)市民の学びを支える体制づくり	1	社会教育・生涯学習関係職員研修の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課 生涯学習総合センター	<<目的>> 社会教育施設や市民センター、地域における学習・交流の機会の提供は、現代的・社会的課題の解決に向けてますます重要になってくる。今後もこれらの施設で、多様かつ有効な生涯学習事業等を推進することができるよう、関係する職員等の研修の充実を図る。 <<実績>> ○令和2年度市民センター館長等研修開催回数:4回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2回中止 ○令和2年度市民センター職員等研修会参加者数:0人 (※新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面開催、各市民センターの事例発表を収録したDVDを配布)	[生涯学習課]901千円の一部 [生涯学習総合センター]100	[生涯学習課]617千円の一部 [生涯学習総合センター]100	参加者の満足度	90%	90%	90%	90%	90%	—	[生涯学習課] 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初6回開催する予定の研修を2回中止したため、「—」とした。 [生涯学習総合センター] より多くの市民センター職員が参加できるよう、実施会場や実施方法を工夫する。また、感染症対策、市民センターの利便性向上のため、オンライン配信の実施についても検討する。 分科会によっては参加希望者数が大きく異なることもあるため、より参加意欲がわく魅力的なテーマ設定や事例を選択する。	[生涯学習課] オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやWeb動画を活用した市民センター館長研修ができるようにする。 [生涯学習総合センター] より多くの市民センター職員が参加できるよう、実施会場や実施方法を工夫する。また、感染症対策、市民センターの利便性向上のため、オンライン配信の実施についても検討する。 分科会によっては参加希望者数が大きく異なることもあるため、より参加意欲がわく魅力的なテーマ設定や事例を選択する。
(1)市民の学びを支える体制づくり	2	生涯学習推進コーディネーター配置事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 市民の生涯学習の推進ならびに市民センター等の活性化を図るため、市民センターと地域をつなぐ人材として、「生涯学習推進コーディネーター」を配置する。 <<実績>> 配置館数:60館(令和2年度末現在)	7,316	6,969	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	65%	70%	75%	80%	85%	c:やや遅れ	生涯学習推進コーディネーター研修会は目標を上回って実施したが、成果指標の配置割合が46.1%であるため「やや遅れ」と判断した。 一方、新規の生涯学習推進コーディネーター研修会を開催して能力向上を図ったほか、社会教育主事・主事補を通じて館長に配置を依頼するなど、生涯学習推進コーディネーター配置推進を行った。	生涯学習推進コーディネーターの配置については、館長研修や区の社会教育主事・主事補を通じて、配置の意義・効果に加え人材の見つけ方などを周知し、全館配置に向け取り組む。
	3	子育てサポーターの配置	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 全市の子育てサポーターが一堂に会し、意見交換や情報交換を行い、交流を深めることで、より地域の子育てを支援する人材となるよう交流会を開催する。 <<実績>> 令和2年度参加者:297名	288	246	子育てサポーターの全館配置	全館配置	全館配置	全館配置	全館配置	全館配置	b:順調	コロナ禍のため子育てサポーター養成講座の実施は中止したが、成果指標については、目標値に達成したため、「順調」と評価した。	子育てサポーターを養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局と協議する。 また、コロナ禍においても子育てサポーター養成講座を実施できるようオンライン環境の整備を図る。
(2)生涯学習関連施設の充実と連携	4	生涯学習施設 市民センターの整備・充実	市民文化スポーツ局 地域振興課	<<目的>> 市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、円滑・適正な管理運営を行うとともに、計画的な改修を行う。 <<実績>> 市民センター中長期保全計画(市民センターの中長期的な維持保全(方向性))を策定し、計画的な改修を進めた。 また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染予防対策マニュアルを作成するなど、安全な環境づくりに努めた。	2,620,222	2,497,682	市民センター1館当たりの利用者数	42千人	42千人	42千人	42千人	42千人	d:遅れ	老朽化対策等のハード面の整備目標を、概ね達成することができたが、新型コロナウイルス感染症拡大による貸館業務の中止等や、外出自粛の影響により、市民センターの目標達成率が40%未満となったため「遅れ」と判断。	市民センターにおけるWi-Fi環境の充実を図るなど、新たな活用方法を検討する。 また、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報を発信することで、利用者増加を図る。 さらに、市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策等のハード面を整備する。能力向上を図る研修や、情報発信等ソフト面の充実にも努め、利用者の増加を図る。
					2,448,985		市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ)	2,200千人	2,200千人	2,200千人	2,200千人	2,200千人			
								2,127千人	2,040千人	2,104千人	1,801千人	856千人			
								96.7%	92.7%	95.6%	81.9%	38.9%			

		← 計画 / 実施 →					← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →						
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度評価理由	今後の方向性			
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値	事業評価	
					決算額	(千円)						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値		
					(千円)	(千円)						達成率	達成率	達成率	達成率	達成率		
5	図書館の整備・充実	教育委員会 企画調整課 中央図書館庶務課・ 奉仕課 子ども図書館	教育委員会 企画調整課 中央図書館庶務課・ 奉仕課 子ども図書館	<<目的>> 中央図書館をはじめとして、子ども図書館、 地区図書館6館、分館6館で本市の図書館網 を形成しており、「レファレンス」や「サービス」を はじめ、「はじめての絵本事業」や「ひまわり文 庫」などの図書館サービスを提供している。今 後も、市民の学びに役立つ図書館、次世代の 育成を支援する図書館として、生涯学習社会 の発展を支える拠点に相応しい図書館サービ スを提供する。 <<実績>> ○はじめての絵本事業 配布状況 令和2年度 99.4% ○H30. 12月開館の子ども図書館の資料充 実に 努めた。 (R元年度末蔵書数) 76,687冊 (R2年度末蔵書数) 77,226冊	はじめて の絵本事 業 14,588	はじめての絵 本事業 12,855	「図書館の利用に関する アンケート」における利 用者の満足度を尋ねる 項目において、「非常に 満足」および「満足」をあ わせた割合	8割以上	8割以上	8割以上	8割以上	8割以上	b:順調	毎年度実施する利用者アンケートにおけ る、利用者満足度を基に算出する。項目は6 項目で、各項目の満足度(非常に良い・良い) の平均を指標とする。 【満足度割合】 ①希望の本 87% ②本の並べ方 92% ③調べ物 82% ④展示行事 79% ⑤応対接客 92% ⑥知識説明 88% ●平均値 86.9%(達成率:108.6%) ①～⑥の平均値において、満足度の達成率 が108.6%と概ね評価できるため「順調」と した。	満足度割合で、80%に足りない「展示行 事」の内容を充実するとともに、レファレンス 能力を高めていきたい。 また、近年、電子図書館、読書バリアフリー法 など、図書館を取り巻く社会情報の状況は大 きく、図書館の利用に関するアンケートだけで 評価するのも困難になりつつある。今後は、 市民のニーズを的確に把握するとともに、そ れを図書館行政に反映できるよう努めてい く。			
				子ども図 書館図書 資料購入 事業 5,000	子ども図 書館 図書資料購入 事業 4,450	89%		89%	87%	—	86.9							
				はじめて の絵本事 業 13,187	子ども図 書館図書 資料購入 事業 3,905	111.0%		111.0%	109.0%	—	108.6%							
6	生涯学習総合センター 及び生涯学習センター の整備・充実	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	<<目的>> 施設の利用状況や老朽化の状況を見なが ら、施設の適正配置、複合化、多機能化など、 より効率的な施設運営を目指し、将来的な財 政負担を軽減するための取組みを進める。 当面は生涯学習活動の場として利用しやす い施設の整備・充実を図り、利用促進に努め る。 <<実績>> 令和2年度利用件数: 13,632件、 利用者数: 224,279人	332,977	413,654	利用者数	720,000人	720,000人	720,000人	720,000人	720,000人	c:やや遅れ	近年の利用の伸び悩みに加え、新型コロナ ウイルス感染拡大防止のための臨時休館や 開館時間短縮、利用自粛により、利用者数は 目標値を大きく下回った。利用件数は40%以 上を達成したため、「やや遅れ」と判断した。	令和3年度から、営利を伴う利用や個人利 用を可能とした。また利用手続きの簡素化を 図るなど、利用しやすい施設を目指していく。				
				308,263	725,272人		708,154人	607,260人	435,237人	224,279人	100.7%				98.4%	84.3%	60.4%	31.1%
				4,543	3,869		90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上				c:やや遅れ	・ひとみらいプレイス・ひとみらい交流ウィーク ともに集客人数は目標値を下回ったが、新型 コロナウイルスの感染者が増加し、緊急事態 宣言等が発令されたことによる、施設の閉館 や事業の中止などが影響していると考えられ る。コロナ禍においても感染対策を徹底しな がら事業を実施し、一定数を集客できたこと については評価すべきであるとする。 ・講座等の満足度等については、無回答が1 割以上あったが、それを差し引いても、目標 を上回ることが出来た。	・集客人数については、新型コロナウイルス の影響もあり、大幅に増加させることは難しい が、感染対策を徹底したうえで、高齢者から 学生まであらゆる年齢層を対象とした事業を 実施することで安定した集客を目指す。 ・講座の実施については、オンラインなども取 り入れつつ、「withコロナ」の時代に沿った事 業を展開することで、満足度の向上に努め る。	
2,658	94.7%	89.1%	89.5%	91.6%	98.5%	105.2%	99.0%	99.4%	101.8%	109.4%								
文化施設	8	長崎街道木屋瀬宿記念 館の整備・充実	市民文化スポーツ局 長崎街道木屋瀬宿 記念館	<<目的>> 地域の伝統文化の継承や文化振興の核とな る施設。郷土の歴史・文化を楽しく学ぶこと ができる「みちの郷土史料館」等があり、さらに充 実を図る。 <<実績>> 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る休 館の影響を受け、入館者数は減少したが、開 館後は感染対策を行いながら4回の企画展や 歴史講座「時代の散歩道」、その他主催事業を 充実させることで郷土の歴史や文化の継承を 行った。	25,855	25,098	入館者数	29,000人	29,000人	29,000人	29,000人	29,000人	c:やや遅れ	企画展や5回シリーズの歴史講座「時代の 散歩道」は感染対策を行いながら目標回数を 開催することができたが、新型コロナウイルス 感染拡大防止のための休館や主催事業中止 の影響で入館者数は目標値を下回ってしま ったため、やや遅れと評価した。				ウイズコロナを見据えた施設運営を行い、 企画展や自主事業において他の文化施設や 団体等と連携して事業を実施することで施設 の認知度を高め、史料館、こやのせ座共によ り多くの方々に来館していただく工夫を行う。
25,076				33,037人	30,585人	33,152人		28,074人	5,231人	113.9%	105.5%	114.3%			96.8%	18.0%		

		← 計 画 / 実 施 →					← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →							
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度				
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値	事業評価	評価理由	方向性
					決算額			(千円)	実績値	実績値	実績値	実績値				実績値	達成率	達成率	達成率
9	美術館の整備・充実	市民文化スポーツ局 美術館	<<目的>> 美術作品の展示や教育普及活動として「ワークショップ及びアウトリーチ事業」、「学校との連携事業」等を行う。展覧会や教育普及活動の充実等により、地域文化の振興に貢献する市民のための美術館をめざす。 <<実績>> コレクション展を3回、企画展(本館・分館)を6回開催。ミュージアムツアーは全体の半数である72校3890人が参加した。	142,363	137,939	美術館入館者数	110,000人	185,000人	210,000人	230,000人	240,000人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により計100日間休館したため、入館者数や展覧会開催回数が例年に比べて落ち込む結果となった。 ミュージアムツアーも同じく新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校が中止となったため、「やや遅れ」と判断。	本館の企画展、コレクション展を充実させ、本市の文化発信拠点としての機能を果たすことにより、「市民の生活に潤いと豊かさを創出し、地域とともに成長していく美術館」の実現を目指す。 美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」の対象者を、令和3年度から市内の国立・私立小学校まで拡大し、次代の担い手である子どもたちのシビックプライドの醸成をはかっていく。					
				116,074			ワークショップ・美術鑑賞教室の参加人数	1,200人	1,200人	8,100人	8,100人				8,100人				
								1,524人	1,537人	9,448人	8,504人				3,999人	127.0%	128.1%	116.6%	105.0%
10	自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)の整備・充実	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	<<目的>> 「いのちのたび」をコンセプトに、歴史、考古、自然史等に関する展示を行い、市民が楽しく学べる場を提供するとともに、資料の収集・保管、研究により、本市の学術文化の発展を図っている。更に魅力ある特別展の開催や、「セカンドスクール事業」「普及講座」などにより、地域のにぎわいの拠点づくりを目指す。 <<実績>> 来館者に安全・安心をもたらすための施設整備を行うとともに、資料収集や保存を進めるなど計画的に資料整備を行った。	60,000	52,600	博物館総入館者数	420,000人	420,000人	450,000人	450,000人	450,000人	d:遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館や緊急事態宣言の発令、入館者の人数制限などの影響が大きく、目標値を大きく下回った。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、R2.8から入館者数の調整としてWeb予約システムを導入し、来館者により安全・安心に展示をご覧いただけるようになった。今後ともコロナ予防対策を継続していく。 ・また、R4年度は開館20周年に当たり、各種イベントの拡充・充実を図るとともに、年度末には10年ぶりとなる展示リニューアルを予定しており集客が見込める。 ・さらにR4春には東田地区に大型民間商業施設の開業、新科学館の開館が予定されているため、広報PRについても強化し一層の集客に努めていく。						
				26,180				508,003人	532,110人	484,016人	452,863人			137,736人					
								121.0%	126.7%	107.6%	100.6%			30.6%					
11	松本清張記念館の整備・充実	市民文化スポーツ局 松本清張記念館	<<目的>> 北九州市出身の作家・松本清張の多岐にわたる創作活動を体系的に紹介し、清張とその時代の研究を行うとともに、市内外に情報発信し本市のイメージアップを図る。「中高生読書感想文コンクール」などを実施する。 <<実績>> コロナ禍により来館者数は伸び悩んだものの、対策を講じながら企画展及び講演会などを実施した。また、「中高生読書感想文コンクール」は併せて60点の応募があった。 【R2年度 企画展開催】 直筆原稿で見る「点と線」のダイナミズム(R2. 9.11～R3.1.11)	松本清張記念館普及事業 9,289	松本清張記念館普及事業 5,045	入館者数	60,000人	60,000人	60,000人	60,000人	60,000人	d:遅れ	企画展は予定通り開催し、来館者のアンケート調査による満足度も微増しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館(R2.4.1～R2.6.18)やその後の外出自粛により入館者数が激減したため、活動状況は「遅れ」と評価した。						
				松本清張記念館研究センター事業 5,053			松本清張記念館研究センター事業 4,943	48,404人	47,205人	42,502人	47,828人			10,453人					
				松本清張記念館普及事業 5,120			スマートフォン等を利用した展示解説事業 1,800	80.7%	78.7%	70.8%	79.7%			17.4%					

		← 計 画 / 実 施 →					← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →						
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度	今後の方向性			
					予算額			予算額	目標値	目標値	目標値	目標値				目標値	事業評価	評価理由
					決算額			(千円)	実績値	実績値	実績値	実績値				実績値	達成率	達成率
青少年施設	12	文学館の整備・充実	市民文化スポーツ局 文学館	<<目的>> 北九州にゆかりのある文学者と文芸活動に関する資料を収集・保存・調査・研究し、公開するとともに、企画展や普及活動、文庫本の発行等の充実を図る。 <<実績>> 新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数は減少したものの、感染防止対策を講じながら、企画展等を行った。 【令和2年度 企画展開催】 「収蔵品展 北九州の文学者」(R2.5.18～R2.7.26) 「収蔵品展 北九州の文学者 小特集「今読みたい！ 私たちのまちの児童文学」(R2.8.4～R2.11.1) 「没後60年 火野葦平展－レットテルはかなしからずやー」(R2.11.21～R3.2.14) 「天変地異と文学」(R3.3.2～R3.3.31) 【令和2年度 文庫発行】 「火野葦平 青春の岐路」(R2.11.21発行)	27,821	19,671	入館者数	22,000人	22,000人	22,000人	7,500人	30,000人	d:遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館(R2.2～R2.6)や特別企画展の変更、イベントの自粛などの対策が必要となった。安全に観覧できる感染防止対策の実施や、展示を紹介する動画配信などの取組を行ったものの、入館者数が減少したことから「遅れ」と判断。	コロナ禍に対応しつつ企画展やイベントの実施、周辺施設との連携等により、来館者やリピーターの増加を図る。			
				10,669			24,743人	22,536人	21,711人	20,896人	8,973人							
	13	青少年の家の運営	子ども家庭局 青少年課	<<目的>> 施設周辺の豊かな自然の中で、野外活動や集団生活などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の精神を学び、心身ともにたくましい青少年の育成を図る。また、身近でより安全かつ快適に利用できるように、青少年施設の利用環境整備を行う。 <<実績>> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和元年度から令和2年度にかけて、休館や施設の利用制限等があり、利用者の大幅減となった。	328,555	328,947	利用者数	前年度 (205,913人) 比増加	前年度 比増加	前年度 比増加	前年度 比増加	前年度 比増加	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館や利用人数の制限等があり利用者数は激減した。しかしながら、施設の計画的な環境整備等が施されたことから評価を「やや遅れ」とした。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心して活動出来るよう活動内容の見直しや、主催事業の計画を行う。			
					329,374			198,769人	194,726人	189,018人	152,769人	39,800人						
								96.5%	100.1%	94.9%	80.8%	26.0%						

## 施策5 学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

<b>関係課</b>	市民文化スポーツ局 生涯学習課、安全・安心推進課、美術館、自然史・歴史博物館 子ども家庭局 子育て支援課、青少年課 建設局 公園管理課 教育委員会 企画調整課、学事課、学校経営・教育指導課、生徒指導・教育相談課、授業づくり支援課、中央図書館庶務課・奉仕課・子ども図書館
------------	---

### 1. 全体評価

<b>B: 順調</b>	<b>評価理由</b>	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国学力・学習状況調査が中止となったため、調査項目にあたる指標の実績・達成率は、「—」となっている。</p> <p>個別の事業では、</p> <p>(1)家庭教育支援の充実において、「家庭・地域への啓発事業」などを通じ、子どもの生活リズムの向上、家庭と地域の教育力の向上に取り組んだ。</p> <p>(2)学校・家庭・地域の連携促進</p> <p>(3)地域での安心な環境づくりと体験活動の促進では、「家庭・地域・学校の連携促進」、「地域学校協働本部事業」、「子ども会等地域活動推進事業」等で学校・家庭・地域の連携強化を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、体験活動や学びの機会は減少した。</p> <p>(4)子ども読書環境の充実では、「図書館の整備・充実」等ハード面の取組みを進めるとともに、「子ども司書養成講座」などソフト面の事業の取組みを進めた。</p> <p>以上から、「B.順調」と評価した。</p>
--------------	-------------	--

### 2. 施策の指標

NO.	所管課	指標	現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1	教育委員会 授業づくり支援課	地域行事に参加するという児童生徒の割合(小学6年生)	目標値	—	56.0%	60.0%	65.0%	全国平均以上	全国平均以上
			実績	48.6%	54.1%	48.5%	64.4%	71.9%	—
			達成率	—	96.6%	80.8%	99.1%	105.7%	—
		地域行事に参加するという児童生徒の割合(中学3年生)	目標値	—	35.0%	38.0%	40.0%	全国平均以上	全国平均以上
			実績	29.4%	29.1%	27.6%	44.1%	59.2%	—
			達成率	—	83.1%	72.6%	110.3%	117.0%	—
2	教育委員会 学校経営・ 教育指導課	学校支援地域本部設置中学校区数	目標値	—	52中学校区	57中学校区	62中学校区	全中学校に配置	全中学校に配置
			実績	42中学校区	52中学校区	57中学校区	62中学校区	62中学校区	全中学校に配置
			達成率	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
3	教育委員会 授業づくり支援課	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合(小学6年生)	目標値	—	98.0%	99.0%	100.0%	全国平均以上	全国平均以上
			実績	92.9%	92.4%	92.4%	91.8%	92.6%	—
			達成率	—	94.3%	93.3%	91.8%	97.2%	—
		朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合(中学3年生)	目標値	—	97.0%	99.0%	100.0%	全国平均以上	全国平均以上
			実績	91.6%	90.8%	91.0%	89.0%	91.0%	—
			達成率	—	93.6%	91.9%	89.0%	97.7%	—
4	教育委員会 授業づくり支援課	家庭や図書館で、普段(月～金曜日)読書を全くしない児童生徒の割合(小学6年生)	目標値	—	21.0%	20.0%	20.0%	19.0%	18.0%
			実績	20.8%	22.3%	24.2%	22.7%	20.7%	—
			達成率	—	94.2%	82.6%	88.1%	91.1%	—
		家庭や図書館で、普段(月～金曜日)読書を全くしない児童生徒の割合(中学3年生)	目標値	—	37.6%	37.1%	37.0%	36.0%	35.0%
			実績	37.8%	42.3%	41.9%	38.8%	39.6%	—
			達成率	—	88.9%	88.5%	95.4%	90.0%	—

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国学力・学習状況調査が中止となったため、調査項目にあたる指標の実績・達成率は、「—」となっている。

#### 【R2年度事業評価について】

本市の行政評価の事業評価基準を基に、新型コロナウイルス感染症の影響及びその他事業の実施状況、実績を踏まえ、評価した。

※参考：行政評価の評価基準

成果指標の達成率を基準に評価

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」



施策5 学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

← 計画 / 実施 →		← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →								
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	R2年度評価理由	今後の方向性
					予算額			決算額	目標値	目標値	目標値	目標値			
								実績値	実績値	実績値	実績値	実績値			
								達成率	達成率	達成率	達成率	達成率			
(1)家庭教育支援の充実	1	家庭・地域への啓発事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課 教育委員会 生徒指導・教育相談課 学校経営・教育指導課 授業づくり支援課 子ども図書館	≪目的≫ 家庭教育について、関心のある保護者とそうでない保護者の二極化傾向がみられる中、従来の取組みに加え、小学校入学前の早い段階からの基本的な生活習慣の定着と、小学校低学年からの家庭学習の定着とを促す保護者への啓発を通じて、家庭教育力向上に取り組んでいく。 ○家庭教育学級の充実 家庭教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。 ≪実績≫ 令和2年度:2,674人	3,777	3,401	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	小:98% 中:97%	小:99% 中:99%	小:100% 中:100%	全国平均以上 (R1全国平均) 小:95.3% 中:93.1%	全国平均以上	—	<生涯学習課> 家庭教育学級は施策2のNo.16の「家庭教育学級の充実」のとおり。  <教育委員会> 朝食の摂取状況については、目標には達していないものの、例年約9割の「子どもたちが毎日食べている」、「どちらかといえば食べている」と回答している。 子どもたちの基本的な生活習慣及び読書習慣の定着を目指して、7・8月の夏休みに幼稚園・保育園・学校を通して「夏の読書カード(早寝・早起き・朝ごはん・読書カード)」を、幼児・児童・生徒に配布し、家庭での取組に向け啓発を行った。 また、基本的な生活習慣定着に家庭で取り組むきっかけになるよう、家庭教育リーフレット「きほんのき」を新小学校1年生対象に「小学校入学説明会」を通じて配布・啓発を行った。  ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国学力・学習状況調査が中止となったため、実績・達成率は「—」となっている。	<生涯学習課> 家庭教育学級は施策2のNo.16の「家庭教育学級の充実」のとおり。  <教育委員会> 朝食の摂取状況は例年同程度を推移しており、全国平均にあと一歩届いていない状況にある。そのため、「早寝・早起き・朝ごはん」の一層の啓発に向けて、文科省等のリーフレットを紹介するなどして取り組んでいく。 また、「きほんのき」を引き続き作成し、「小学校入学説明会」等で紹介していくことで幼年期からの生活習慣の定着を図る。
				≪目的≫ 妊娠時の早い時期から子どもの読書に関心をもち、おなかの赤ちゃんに絵本を読んであげることにより、親子でゆったりとしたひとときを過ごしてもらうことを目的として、母子健康手帳交付時に「絵本パック」を無料で配布する。 ≪実績≫ 配布状況 令和2年度 99.4%	14,588			12,855	75%	85%	95%	95%			
≪目的≫ 地域の人材や教育機能を学校教育に生かし、地域と学校が連携して子どもたちの「生きる力」をばぐくむこと。 ≪実績≫ 令和2年度延べ活動人数:27,619人	52,325	51,575	120,000人	120,000人	120,000人	前年度の水準を維持	前年度の水準を維持	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域学校協働活動推進員やスクールヘルパーを中心に行う地域学校協働活動を11月まで中止していた。 このため、スクールヘルパーの延べ活動人数は目標人数を大きく下回ったことから「やや遅れ」と判断した。	より学校のニーズに合ったスクールヘルパーを多く配置できるようにする必要がある。					
≪目的≫ 地域の方々、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、ともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動(地域学校協働活動)を推進する。 各中学校区に本部を置き、地域学校協働活動推進員や、スクールヘルパーを中心に、学校支援活動や学びによるまちづくり、地域活動などの様々な活動を推進する。 ≪実績≫ 令和2年度に「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」に移行し、全中学校区で設置。	15,025	8,087	116,813人	110,358人	100,074人	84,732人	27,619人				c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域学校協働活動推進員やスクールヘルパーを中心に行う地域学校協働活動を11月まで中止していた。 このような状況から、子どもたちと地域住民との交流による様々な体験や経験、コミュニケーション能力の向上などといった「教育的効果が得られた」と回答した学校の割合が減少し、「やや遅れ」と判断した。	地域学校協働活動事業については、引き続き、地域と学校の連携、協働を推進していく。		
≪目的≫ 地域の方々、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、ともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動(地域学校協働活動)を推進する。 各中学校区に本部を置き、地域学校協働活動推進員や、スクールヘルパーを中心に、学校支援活動や学びによるまちづくり、地域活動などの様々な活動を推進する。 ≪実績≫ 令和2年度に「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」に移行し、全中学校区で設置。	8,087	8,098	52本部	57本部	62本部	全中学校	全中学校	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域学校協働活動推進員やスクールヘルパーを中心に行う地域学校協働活動を11月まで中止していた。 このような状況から、子どもたちと地域住民との交流による様々な体験や経験、コミュニケーション能力の向上などといった「教育的効果が得られた」と回答した学校の割合が減少し、「やや遅れ」と判断した。	地域学校協働活動事業については、引き続き、地域と学校の連携、協働を推進していく。					
≪目的≫ 地域の方々、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、ともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動(地域学校協働活動)を推進する。 各中学校区に本部を置き、地域学校協働活動推進員や、スクールヘルパーを中心に、学校支援活動や学びによるまちづくり、地域活動などの様々な活動を推進する。 ≪実績≫ 令和2年度に「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」に移行し、全中学校区で設置。	3,715	4,098	47本部	50本部	57本部	54本部	13本部				c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域学校協働活動推進員やスクールヘルパーを中心に行う地域学校協働活動を11月まで中止していた。 このような状況から、子どもたちと地域住民との交流による様々な体験や経験、コミュニケーション能力の向上などといった「教育的効果が得られた」と回答した学校の割合が減少し、「やや遅れ」と判断した。	地域学校協働活動事業については、引き続き、地域と学校の連携、協働を推進していく。		
≪目的≫ 地域の方々、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、ともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動(地域学校協働活動)を推進する。 各中学校区に本部を置き、地域学校協働活動推進員や、スクールヘルパーを中心に、学校支援活動や学びによるまちづくり、地域活動などの様々な活動を推進する。 ≪実績≫ 令和2年度に「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」に移行し、全中学校区で設置。	8,087	8,098	90.4%	87.7%	91.9%	87.1%	21.0%	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域学校協働活動推進員やスクールヘルパーを中心に行う地域学校協働活動を11月まで中止していた。 このような状況から、子どもたちと地域住民との交流による様々な体験や経験、コミュニケーション能力の向上などといった「教育的効果が得られた」と回答した学校の割合が減少し、「やや遅れ」と判断した。	地域学校協働活動事業については、引き続き、地域と学校の連携、協働を推進していく。					

← 計画 / 実施 →		← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →								
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性
					予算額 決算額 (千円)	予算額 (千円)		目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率	目標値 実績値 達成率			
	5	経済界との連携による 学校支援事業	教育委員会 生徒指導・教育相談課	<<目的>> 経済界と連携することで、企業のもつ人材や経営のノウハウなどを活かし、出前授業や体験活動、教職員を対象とした研修などに取り組む。 <<実績>> オンラインでの体験活動、社会見学開始。	5,500	5,500	各実施校に対して行ったアンケートの結果「本事業が順調に進んだ」「ある程度うまくいった」と回答した学校の割合	80%	80%	80%	前年度以上	前年度以上	b:順調	実施件数として、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で少なかったが、その他の年度では目標を達成している。また、アンケート結果では学校の満足度も高く、「順調」と判断した。	引き続き全小学校を対象校として実施し、学校支援を行う仕組み作りを進める。また、リモートやSDGsなど社会情勢にあわせた学校の支援に取り組む。
				5,500	経済界との連携による学校支援対象校数		100校	100.0%	全小学校(132校)	100.0%	全小学校(132校)	100.0%			
	6	子ども司書養成講座	教育委員会 子ども図書館	<<目的>> 子どもたちが図書館への関心や読書への関心を一層高めることや、学校での読書活動推進のリーダーとして活躍できるよう、司書の仕事に触れる講座を実施する。 <<実績>> R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「子ども司書養成講座」(全5回)は行わず、1回のみの「子どもの図書館講座」を実施した。参加者数:33名(募集30名程度)	2,020	1,958	子ども司書養成講座の受講者数 ※R2年度は、秋のイベントとして行った「子どもの図書館講座」の実績	70人	70人	70人	70人	30人	b:順調	R2年度は、新型コロナウイルスの影響で「子ども司書養成講座」の開催が中止となった。そのため、秋のイベントとして「子どもの図書館講座」を1回開催した。コロナ禍においても、図書館や読書に関心のある子どもたちにニーズに応える講座が開催できた。	「子ども司書養成講座」は、読書の大切さを知る子どもを増やすという大切な役割を担っており、今後も継続して開催していく。また、司書養成講座で学んだことを生かして、学校や地域で読書活動を推進したり、ジュニアサポーターとして子ども図書館でボランティア活動を行う子どもたちを増やしたい。
				1,819	70人		72人	55人	51人	33人	100%	102.9%			
(3)地域での安心な環境 づくりと体験活動の 促進	7	遊びの広場促進事業	子ども家庭局 青少年課	<<目的>> 市内の団体・グループが実施する子どもの健全育成を目的とした活動で、他のモデルとなるような活動に対し、補助金を支給し、地域での子どもの活動の活性化を図る。 <<実績>> 補助金交付団体:6団体	662	12,627 の一部	交付団体数	前年度(12回)比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比増加	b:順調	補助金交付団体数は前年度より減っているが、多様な青少年育成活動を行う団体に助成できた。	継続性があり、他の団体等の参考(モデル)になる取り組みを、適切に評価できるよう、制度の改善に努める。
				404	9団体		75.0%	7団体	77.7%	7団体	100.0%	7団体			
	8	子ども会等地域活動推進事業	子ども家庭局 青少年課	<<目的>> 地域における子どもの活動を活性化させるため、地域で子どもたちが活動し成長する環境づくりや、そのような活動に携わる市民への支援を行う。 <<実績>> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により市民センターが閉鎖するなどしたため派遣事業の一部を中止したが、地域の子どもたちが活動し成長する環境づくりができた。	668	12,627 の一部	遊びの達人派遣事業参加者数	前年度(4,922人)比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	b:順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、市民センターが一部閉鎖した。そのため、派遣回数が減少し、参加者数は減少したが、地域の子供たちが活動し、成長する環境づくりに向けた取組みを進めることができた。	遊びの達人の派遣を中心に、市民センターや子ども会等とも連携しながら事業を実施していく必要がある。
				154	5,979人		121.4%	6,202人	103.7%	5,081人	81.9%	3,113人			
	9	家庭・地域・学校の連携 推進	市民文化スポーツ局 生涯学習課	<<目的>> 子どもの生きる力をはぐくみ、心豊かでたくましい子どもを育てるため、体験活動の機会の充実など、家庭・地域・学校が一体となった取組みを推進する。 ○生活体験通学合宿 保護者等の参加を取り入れるなど、運営方法を工夫し、小学校4～6年生が市民センターに3泊4日滞在・通学しながら、様々な生活体験や異年齢・地域の大人との交流を通じて、子どもの自立を図り、生きる力を育てる取組みを実施する。 ○地域・子ども交流事業 地域の特色を活かし、家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な体験活動の機会等を提供し地域で子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機会を醸成する講座を開催する。 <<実績>> 令和2年度:14,390人	13,574 の一部	13,516 の一部	地域・子ども交流事業の実施館数	全館実施	全館実施	全館実施	全館実施	全館実施	b:順調	成果指標の「地域・子ども交流事業の実施館数」の達成率が86.9%であるため「順調」と判断した。	地域全体で子どもの健全育成に取り組めるよう市民センター館長研修の充実を図り、より地域の状況に応じた地域の課題解決につながる講座を提供する。
				1,538	全館実施		100.0%	全館実施	100.0%	全館実施	100.0%	全館実施			

		← 計 画 / 実 施 →				← 実 施 →					← 評 価 ・ 方 向 性 →										
施策の位置づけ(中項目)	番号	事務事業	所管課	概要(目的・R2年度実績等)	R2年度	R3年度	成果指標	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度 事業評価	R2年度評価理由	今後の方向性						
					予算額 決算額 (千円)	予算額 (千円)		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値				実績値	実績値	実績値	実績値	達成率	達成率
(4)子どもの読書環境の充実	10	【再掲】 図書館の整備・充実	教育委員会 企画調整課 中央図書館庶務課・ 奉仕課 子ども図書館	≪目的≫ 中央図書館をはじめとして、子ども図書館、地区図書館6館、分館6館で本市の図書館網を形成しており、「レファレンス・サービス」をはじめ、「はじめての絵本事業」や「ひまわり文庫」などの図書館サービスを提供している。今後も、市民の学びに役立つ図書館、次世代の育成を支援する図書館として、生涯学習社会の発展を支える拠点に相応しい図書館サービスを提供する。 ≪実績≫ ○はじめての絵本事業 配布状況 令和2年度 99.4% ○H30. 12月閉館の子ども図書館の資料充実に努めた。 (R元年度末蔵書数) 76,687冊 (R2年度末蔵書数) 77,226冊	はじめての絵本事業 14,588	はじめての絵本事業 12,855	「図書館の利用に関するアンケート」における利用者の満足度を尋ねる項目において、「非常に満足」および「満足」をあわせた割合	8割以上	8割以上	8割以上	8割以上	8割以上	b:順調	毎年度実施する利用者アンケートにおける、利用者満足度を基に算出する。項目は6項目で、各項目の満足度(非常に良い・良い)の平均を指標とする。 【満足度割合】 ①希望の本 87% ②本の並べ方 92% ③調べ物 82% ④展示行事 79% ⑤応対接遇 92% ⑥知識説明 88% ●平均値 86.9%(達成率:108.6%) ①～⑥の平均値において、満足度の達成率が108.6%と概ね評価できるため「順調」とした。	満足度割合で、80%に足りない「展示行事」の内容を充実するとともに、レファレンス能力を高めていきたい。 また、近年、電子図書館、読書バリアフリー法など、図書館を取り巻く社会情報の状況は大きく、図書館の利用に関するアンケートだけで評価するのも困難になりつつある。今後は、市民のニーズを的確に把握するとともに、それを図書館行政に反映できるよう努めていく。						
	11	【再掲】 読み聞かせボランティア養成	教育委員会 子ども図書館	≪目的≫ 読書を通して、子どもの豊かな感性を育むため、読み聞かせなどが行えるボランティアの育成を図る。 ≪実績≫ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により講座を中止。	441	331	読み聞かせボランティア養成講座の受講者数	130人	125人	125人	125人	125人				—	—	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため講座を中止したことにより、評価が難しいとした。	読書をする子どもを増やすには、大人の協力は欠かせない。子どもが読書活動に親しみ、読書の大切さを知ることができるよう、力強く支える大人を増やし、市立図書館や学校など市内で活動している読み聞かせボランティアなど読書に係るボランティアの育成、連携支援に取り組む。		
	12	【再掲】 はじめての絵本事業	教育委員会 子ども図書館	≪目的≫ 妊娠時の早い時期から子どもの読書に関心を持ってもらい、おなかの赤ちゃんに絵本を読んであげることにより、親子でゆったりとしたひとときを過ごしてもらうことを目的として、母子健康手帳交付時に「絵本バック」を無料で配布する。 ≪実績≫ 配布状況 令和2年度 99.4%	14,588	12,855	絵本バックの配布率	75%	85%	95%	95%	95%				b:順調				令和2年度の配布率は99.4%となり、目標の95%を達成できたため「順調」とした。	妊娠の早い時期から子どもの読書活動に関心を持ってもらうきっかけづくりとともに、配布率の向上を図るため、「はじめての絵本事業」を継続する。なお、「ブックスタート事業」の絵本交付案内はがきの送付は、平成29年7月末をもって終了したが、絵本バックを受け取っていない方については、引き続き図書館等で配布を行っている。
	13	【再掲】 子ども司書養成講座	教育委員会 子ども図書館	≪目的≫ 子どもたちが図書館への関心や読書への関心を一層高めることや、学校での読書活動推進のリーダーとして活躍できるよう、司書の仕事に触れる講座を実施する。 ≪実績≫ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「子ども司書養成講座」(全5回)は行わず、1回のみ「子どもの図書館講座」を実施した。 参加者数:33名(募集30名程度)	2,020	1,958	子ども司書養成講座の受講者数 ※R2年は、秋のイベントとして行った「子どもの図書館講座」の実績	70人	70人	70人	70人	30人									

資料3

社会教育委員会議の協議テーマ  
について

## 1 今期の社会教育委員会議の協議テーマについて(案)

“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり

～SDGsの達成を目指して～

## 選定理由・ねらい

- 少子高齢化や人口減少の進行、急速な社会環境の変化の中、持続可能な地域づくりを進めるため、住民主体で地域課題に取り組むことが期待され、社会教育・生涯学習を通じた「地域づくり・人づくり」が必要とされている。
- そのためには、本市が令和3年度に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」の施策について、具体的な取り組み事例を踏まえて考察し、計画を推進していく必要がある。
- そこで、社会教育委員の方々からの意見等をもとに、3つの課題
  - ① 子どもの健全育成・体験活動
  - ② 地域防災力の向上(危機管理)
  - ③ 地域の健康増進に関する取り組みを取り上げ、本市における「地域づくり・人づくり」に必要とされること等について、新たな視点から提言していただく。
- 生涯学習推進計画の具体的な施策・取り組みは、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGsにつながっている。各ゴールの視点から現在の取り組みを見直すことにより、SDGsの達成を目指すもの。

## 協議回数(予定)

- 6回  
(令和3年度第2回・3回会議、令和4年度第1回・2回・3回会議、令和5年度第1回会議)

2 今期の北九州市社会教育委員会議の予定(案)

	会議	日程	議題
1	令和3年度 第2回会議	令和3年11月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議長・副議長の互選【定例】</li> <li>・ 北九州生涯学習推進計画にかかる施策・事務事業の進捗状況(前年度評価)【定例】</li> <li>・ 協議テーマについて①(テーマの決定)</li> </ul>
2	令和3年度 第3回会議	令和4年1月 中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議テーマについて②(意見交換)</li> </ul>
3	令和4年度 第1回会議	令和4年5月 下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会教育関係主要事業及び補助金について【定例】</li> <li>・ 協議テーマについて③(意見交換)</li> </ul>
4	令和4年度 第2回会議	令和4年10月 中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議長・副議長の互選【定例】</li> <li>・ 北九州生涯学習推進計画にかかる施策・事務事業の進捗状況(前年度評価)【定例】</li> <li>・ 協議テーマについて④(意見交換)</li> </ul>
5	令和4年度 第3回会議	令和5年1月 中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議テーマについて⑤(意見交換)</li> </ul>
6	令和5年度 第1回会議	令和5年5月 下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会教育関係主要事業及び補助金について【定例】</li> <li>・ 協議テーマについて⑥(意見のまとめ)</li> </ul>

## 3 令和3年度第1回会議 協議テーマについて(委員意見整理)

生涯学習推進計画 施策・取組み	委員の意見・問題提起(概要)
<b>1 多様な「学び」の機会の提供 【柱1(3)】</b>	
① 学びのきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により子どもたちの体験が減少しており、体験に飢えている。</li> <li>・コロナ禍の中で、いかにスポーツに参加させ、健康増進につなげるかが課題となっている。</li> <li>・ZOOMなどの通信技術を導入した地域としていない地域の格差が出ている。</li> </ul>
② ライフステージや多様性に 応じた学習機会の提供・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で、いかにスポーツに参加させ、健康増進につなげるかが課題となっている。[再掲]</li> <li>・地域が実施する「地域で育もう未来の種事業」など、体験を提供する事業に、定員オーバーになる ほど申し込みがある。</li> </ul>
③ 現代的・社会的な課題の 解決に向けた学習機会の提供・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンデミックなどの問題が起きても地域活動が継続できるよう、事前に危機管理を学び、体制を整えておくべき。</li> <li>・コロナ禍により子育てに対する悩みを相談する場が急速に失われている。また、経済的、精神的に困難な家庭が増加している。</li> <li>・高齢者もデジタル活用ができないとコロナワクチンの予約も難しくなる。生活の質を向上させるためにはデジタル活用が必要である。</li> </ul>
<b>2 「学び」と「活動」の場づくり 【柱1(4)】</b>	
① 学んだ成果を活かす 仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により地域活動が減少している。</li> <li>・高齢化などにより地域活動をしている人が減少している一方、行政の事業で育成された人材が地域に入ってきている実感があまりない。</li> <li>・地域活動について、朝から晩までは無理だが少しならできると、という人が取りこぼされていないか、と感じる。</li> </ul>
② 生涯学習関連施設の 整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民センターを土曜日の夜と日曜日にも使用できるようにしてほしい。</li> </ul>
<b>3 「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成 【柱2(1)】</b>	
① 地域ボランティアの 発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によって活動の熱心さに格差がある。</li> </ul>
<b>4 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上 【柱3(3)】</b>	
① 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により子育てに対する悩みを相談する場が急速に失われている。また、経済的、精神的に困難な家庭が増加している。</li> <li>・子どもたちは助けてもらうばかりでは、大人になって世の中に出て逆境にあった時に克服できない。</li> </ul>
② 学校・地域・学校の 連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは普段「してもらう」ことばかりだが、子どもたちの力を地域に返すこと、地域で活躍することが必要ではないか。[再掲]</li> <li>・地域によって活動の熱心さに格差がある。[再掲]</li> </ul>
③ 地域における子ども たちの発達・育成を 促す環境づくりと体験 活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が実施する「地域で育もう未来の種事業」など、体験を提供する事業に、定員オーバーする ほど申し込みがある。[再掲]</li> <li>・ボランティア活動を募集したところ、参加希望が多く、子どもたちが「体験」に飢えていると感じた。[再掲]</li> <li>・子どもたちは助けてもらうばかりでは、大人になって世の中に出て逆境にあった時に克服できない。[再掲]</li> <li>・高齢者、若い世代の育成に行政が協力してほしい。</li> </ul>